

II 試験研究の推進

1 研究活動の概要

岩手県では、平成 21 年度から平成 30 年度までの 10 年間の計画となる「いわて県民計画」を平成 21 年 12 月に策定した。この「いわて県民計画」に基づき、農林水産部では、農林水産分野の長期的な技術開発の方針として『農林水産技術立県いわて』技術開発基本方針（以下「技術開発基本方針」という。）を策定した（平成 22 年 3 月）。

技術開発基本方針に基づき、農業研究センターでは平成 26 年度までに取り組む具体的なアクションプラン「岩手県農業研究センター試験研究推進計画」を策定した（平成 22 年 3 月、平成 24 年 3 月研究期間を 30 年度まで延長し改訂）。

技術開発基本方針の 6 つの農業技術開発の方向に即し、19 分野 56 の取組により、安全・安心で高品質な農畜産物を効率的・安定的に生産するための高度な技術の開発を進め、「農林水産技術立県いわて」の確立に取り組んでいる。

平成 25 年度の試験研究にあたっては、以下の 3 つの基本方針に沿って、新規 13、継続 111、合計 124（小課題数ベースで、分野を重複する小課題はカウントしている）の研究課題に取り組んだ。

- 1 顧客の視点に立った試験研究等業務の着実な推進
〔
 - ・ 所得向上につながる普及性の高い技術開発
 - ・ 産地づくりをリードする革新的な技術開発など〕
- 2 プロジェクト研究の推進によるスピーディーな課題解決
〔
 - ・ 課題設定から普及定着まで、研究、行政、普及、地域が一体的に推進
 - ・ 連携軸強化による効率的・効果的かつ戦略的な技術開発〕
- 3 情報発信の強化による県民への業務の「見える化」の推進
〔
 - ・ 知的財産の実用化促進
 - ・ 研究成果活用・PR 強化〕

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災等への対応として設置した「震災復旧・復興支援プロジェクトチーム」を「震災復興加速プロジェクトチーム」に改組し（平成 25 年 7 月 1 日）、沿岸地域における復興に向けた技術的、経営的ニーズへの積極的対応、実証試験を通じた技術の導入・開発に取り組んだ。

また、「放射性物質に係る農業技術対策調査検討チーム」では、過去 2 年間の調査結果を踏まえ、大豆及び果樹についてモニタリング調査を実施し、カリ施用による大豆のセシウム吸収抑制効果や果樹の枝におけるセシウム濃度の推移を確認した。放射性物質については、特に牧草や大豆での吸収を低減する技術開発を行った。

県独自予算の研究に加え、競争的資金等の活用や産学官連携による共同研究を推進し、農産部門で 25 課題（うち新規 5 課題）、畜産部門で 5 課題、合計 30 課題の共同研究に取り組んだ。中でも、農林水産技術会議の「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の「中山間地域における施設園芸技術の実証研究」並びに「ブランド化を促進する農産物の生産・加工技術の実証研究」の「果樹類」及び「野菜類」の 3 課題については代表機関として、また、共同研究機関として「中小区画土地利用型営農技術の実証研究」に取り組んだ。

産学官連携では、水稻、小麦及び大豆で実需者や加工業者等との情報交換会を開催するとともに、いわて産学官連携フォーラム等に出展して研究成果を積極的に PR し、新たなニーズの掘り起こしを行った。

知的財産では、「アワ岩手糯 3 号」を品種登録出願し、また、「植物体茎部を熱交換することによる葉温制御法」について特許出願した。

新たな黒毛和種基幹種雄牛として「古都乃花」（ことのはな）、「平安茂福」（ひらやすしげふく）、「月山桜」（がっさんざくら）の 3 頭を指定した。

本年度の試験研究から得られた成果は、内部及び外部（試験研究推進アドバイザー・生産者等）の評価を経て、64 の研究成果（普及区分 13、指導区分 39、行政区分 10、研究区分 2）にとりまとめ公表した。

平成 24 年度に設置した機関評価委員会を、11 月 13 日に畜産研究所を会場として開催し、昨年度の評価意見に対応した本年度の取組状況や試験研究の進捗状況等を報告するとともに、試験研究全般に関し意見交換を行った。

2 トピックス

(1)特許・品種登録出願状況

区分	出願・登録内容	担当
特許	切断器具（果樹摘果用はさみ） 【特許出願番号 特願 2013-084786 号(2013/4/15)】	技術部 果樹研究室
	植物の栽培方法及び植物の栽培装置 【特許出願番号 特願 2014-51011 号(2014/3/14)】	技術部 野菜花き研究室
種苗登録	アワ ゆいこがね(アワ岩手糯 3 号) 【出願番号 27998、登録出願 2014/2/5】 ・粒が大きく多収で黄色い糯性のアワ品種	県北農業研究所 作物研究室
	りんどう いわて夢みのり(いわて LB-2 号) 【登録番号 22946、登録 2014/1/23】 ・9月下旬開花の切り花向け青色リンドウ F ₁ 品種	技術部 野菜花き研究室

(2)表彰等受賞状況

ア 平成 25 年度農林水産部長職員表彰(グループ表彰)

技術部南部園芸研究室が、「新技術実用化による復興イチゴと沿岸地域への導入」により著しい業績をあげたとして、農林水産部長職員表彰を受けた(平成 25 年 10 月 30 日)。

南部園芸研究室では、イチゴ栽培で課題となる省力化、コスト低減、安定生産を解決するため、当時開発中であった「高設栽培装置及びこれを用いた高設栽培方法」(特許 4900735 号)の実用性を高め、県内企業(東日本機電開発(株))と協力して市販品「らく・エコ・ハンモック」を完成させた。

さらに、未利用資源であった県産杉の樹皮を培養土に用いることで、被災した耕地土壌を使わず、かつ廃液を出さずに省力的で安定生産を可能とする岩手オリジナルのイチゴ高設栽培技術を実用化したこと等が評価されたもの。

イ 平成 25 年度東北土壤肥料協議会藤原彰夫研究奨励賞

生産環境研究室佐藤喬 上席専門研究員が、津波被災農地での自然降雨による EC 推移についての研究成果が、土壤肥料に関する調査・研究などの活動で優れた業績として評価され、東北土壤肥料協議会藤原彰夫研究奨励賞を受賞した(平成 25 年 7 月 9 日)

なお、当該協議会は、東北6県の試験研究機関、東北農業研究センター、大学の土壤肥料関係研究者および肥料製造メーカー等で構成される産官学が一体となった組織であり、当表彰は、協議会員を対象として、毎年、土壤肥料に関する調査・研究等で優れた業績を残し、今後活動が期待される研究者に贈られるものである。

(3)特定課題調査検討チームによる検討及び連携プロジェクトによる研究推進

ア 特定課題検討チーム*

なし

(*多岐にわたる課題あるいは今後重要と見込まれる事項について研究的観点から検討するチーム)

イ 連携プロジェクト**

(**多岐の研究部門にまたがる研究課題を短期間に、効率よく解決するために編成するプロジェクト)

(ア)プロジェクト名及び構成

分野	プロジェクト名	研究内容	チーム員	協力
個別課題解決	リンドウこぶ症連携プロジェクト [H21~]	◎リンドウこぶ症対策に係る試験研究	環境部 技術部	・(公財)岩手生物工学研究センター ・中央農業改良普及センター
	水稻種子病害対策連携プロジェクト [H24~]	◎水稻細菌病類を主体とした種子伝染性病害防除対策に係る試験研究並びに指導機関と連携した技術対応	環境部 技術部	・病害虫防除所 ・中央農業改良普及センター

(イ) 取組概要

名称	検討内容	検討結果
リンドウこぶ症	りんどうこぶ症関連ウイルス(GKaV)の伝搬経路を探索し、こぶ症の発生原因を解明するため、連携プロジェクトを継続。GKaVの病原性について研究を進めている生工研とも連携を図る。 ○第1回チーム会議(H25.5.21)	○新規課題「りんどうこぶ症関連ウイルス(GKaV)の伝搬経路の探索(H25-27:県単)」の実施計画の確認 ○生工研の共同研究課題「先端的かつ岩手県独自の病害診断システムの構築に向けた基礎技術の開発」の実施計画の確認
水稻種子病害対策	新規課題の進捗状況確認 ○第1回チーム会議(H25.5.28) ○第2回チーム会議(H26.2.7)	○第1回チーム会議 本年度の試験計画の確認 育苗センター等巡回結果の情報共有 ○第2回チーム会議 本年度実施した試験結果の検討 次年度研究計画の検討 本年産種子の保菌状況調査結果の共有

ウ 復興加速プロジェクトチーム

平成23年3月11日に発生した東日本大地震津波で甚大な被害を被った沿岸地域の農業の復旧・復興に向けた具体的な技術支援対策を実施するため設置した「震災復旧・復興支援プロジェクトチーム」を「復興加速プロジェクトチーム」に発展改組し(平成25年7月1日)、農林水産省の委託研究予算(食料生産地域再生のための先端技術展開事業、農林水産省委託、平成25～29年度)を獲得して、復興に資する大規模な実証研究を開始した。

この実証研究は、地域の特徴に合わせた営農技術の実用化並びに経営の姿を6つの経営体における実証を通じて明らかにするものである。農商工連携や観光と結びついた高付加価値化、素材の科学的な評価や新品種を基にしたブランド化、地域の木質資源やICT技術を駆使した低コスト生産技術などを経営面からも評価しつつ総合的に組み立てて普及定着を図っていく内容で、県内外の民間企業・大学・研究機関28機関が取り組んでいる。さらに、沿岸広域振興局、大船渡農業改良普及センター及び中央農業改良普及センターが普及支援組織として協力している。

平成25年度は開始1年目であり、まだ完成された実用成果を示すことはできなかったが、木骨ハウスなど実規模の低コスト施設の建造、有望な野菜品目の地域適応性の検討、りんご早期成園化のためのフェザー苗養成技術や北限のユズ栽培の実証、土地利用型作物の適品種の選定、小型汎用コンバインを核とする低コスト栽培技術の実証など、非常に幅広い取り組みを展開した。また、農業経営面でも沿岸被災地におけるビジネスモデルの構築に向け、実証経営体の総合的な分析評価やコンサルティングを実施した。

エ 放射性物質に係る農業技術対策調査検討チーム

東京電力福島第一原子力発電所事故の事故による放射性物質への対策を講じるため、農業研究センターと中央農業改良普及センターで「放射性物質に係る農業技術対策調査検討チーム」を設置し(平成23年9月)、環境部長をチーム長として、これまで、県産農産物のモニタリング調査や吸収抑制対策等に取り組んだ。

平成25年度は、過去2年間の調査研究の結果、米、野菜、果実などからは放射性セシウムはほとんど検出されないことが明らかとなったことから、調査対象を絞り込み、果樹の剪定枝および土壌における放射性セシウムの経年変化の調査と平成25年度の農作物放射性濃度検査でセシウムが検出された大豆を対象として土壌の要因調査を行った。

調査結果は、これまでの知見と同様、放射性セシウムが検出された大豆は、土壌中の交換性カリ含量が少ないことが要因であり、土壌中の放射性セシウムは、壊変によって、おおむね理論値どおりに減少した。

3 研究室・課の動き

(1)プロジェクト推進室

水稻の湛水直播栽培安定多収技術の開発、及び水田転換畑における麦・大豆の安定多収を実現する新技術等の開発を行い、これらを軸に、土地利用型作物の低コスト生産技術の確立と体系化に取り組んだ。また、沿岸南部地域において本年度から「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の取組みを開始した。

業務推進にあたっては、競争力・社会貢献力のある技術シーズの開発を目指し、現地実証試験やビジネスパートナーとのコミュニケーションの強化によって、生産現場に即した技術の実用化を図った。

<水稻直播栽培の安定多収技術の開発>

県内で急速に普及拡大している水稻鉄コーティング湛水直播栽培技術について、その特徴を整理し、本県のような寒冷地における苗立ち安定化技術について明らかにした。(研究成果:普及区分 水稻鉄コーティング湛水直播の最適コーティング量と本田初期管理。指導区分 水稻鉄コーティング種子作製用鉄粉の造粒・発熱特性の比較。指導区分 水稻鉄コーティング湛水直播栽培技術の特徴)。

<水田大豆・小麦の多収、低コスト技術の開発>

水田転換畑における作物の生産性向上技術の開発を進めた。大豆については、小畦立て播種栽培に適応できる機械除草技術を開発した。小麦については、湿害軽減播種技術として、大豆小畦立て播種と同じ仕様でできる単条広幅小畦立て播種技術を開発した。(研究成果:指導区分 水田大豆の小畦立て栽培に対応できる改良型ディスク式除草機の効果。指導区分 大豆小畦立て播種と同じ仕様でできる小麦の単条広幅小畦立て播種栽培)。

開発技術については、農業改良普及センターからの要請により現地実証を実施した。大豆の機械除草技術については、奥州市水沢区、江刺区において行い、実証農家からは好評価が得られた。また、小麦の密条小畦立て播種についても、花巻市、奥州市水沢区において実証し、湿害軽減効果が確認された。

<食料生産地域再生のための先端技術展開事業>

「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」(中小区画土地利用型営農技術の実証研究)(代表機関:(独)東北農業研究センター)に参画し、東日本大震災からの早期復興をねらいとして、土地利用型作物の低コスト・省力・安定生産技術の実証試験を開始した。陸前高田市において水稻直播栽培技術、大豆小畦立て播種栽培技術、大槌町においてソバ畦立て播種栽培技術を実証した。また、これらの3種の作物を1台の小型汎用コンバインで収穫する技術の実証試験を実施した。

(2)企画管理部

研究企画室

農業試験研究のアクションプランである「農業研究センター試験研究推進計画」に基づき、研究員の円滑な試験研究の支援、生産者や県民に開かれた農業研究センターを目指し、以下の事項について重点的に取り組んだ。

<顧客視点の試験研究の推進>

顧客のニーズに対応した試験研究を推進するため、農業農村指導士会の部会研修会での意見交換(7・8月)で、顧客である農業者等のニーズを把握した。

試験研究推進計画については、前期5年間の研究実績を踏まえ、平成26年度から平成30年度までの後期計画を策定した。

試験研究推進の仕組みについては、研究課題の収集方法や研究成果の追跡評価方法を見直すとともに、平成23年度に制度化した試験研究推進アドバイザーを研究会議において活用し、顧客目線での助言を得た。

センター運営や試験研究推進に対する外部評価を得るため設置した機関評価委員会を畜産研究所において11月13日に開催した。畜産研究所での日本短角種雄牛の育成状況の見学と南部かしわの試食後、昨年度の評価意見への対応状況や試験研究に関し、質疑と意見交換を行った。

本年度から実施している食料生産地域再生のための先端技術展開事業を適正に執行するため、本部職員に対して事業説明会や経理事務研修会を開催した。

また、競争的研究資金等への応募のため、資金情報の提供や研究計画作成への助言を行うとともに、共同研究を推進

するため、いわて産学官連携フォーラムへ出展し、研究シーズを大学・企業等へ紹介した。

<アウトカムを意識した研究成果の普及と情報発信>

研究センターの業務内容や研究成果の周知を図るため、マスコミへのプレスリリースやホームページにより積極的な情報発信を行なった。プレスリリースは年間22回(前年36回)行い、マスコミでの報道件数は62件(前年82件)であった。ホームページでは年間354万件(前年332万件)の閲覧数があり、また、研究活動の現在(いま)を分かり易く伝える「らば・れたあ」をメールやホームページにより年間77件(前年70件)発信した。さらに、Twitterによる情報発信では、ホームページの更新情報を中心にツイート数1,082回、フォロワー増加数310名であった。

センターを一般に開放する参観デーや一日子供農業研究員を開催した。

参観デーは8月30・31日に開催し、来場者数は約2,500名と前年並みであった。また、一日農業研究員は8月1日に「害虫とただのムシ」として開催し、北上市及び花巻市の小学生16名が参加した。果樹用農薬飛散制御型防除機に関する現地セミナーを独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センターと共同開催するとともに、農業における放射性物質対策技術研修会を開催した。また、震災被災地である陸前高田市でいちごの高設栽培技術を紹介する現地ふれあい農業研究センターを開催し、研究最終年度となった非主食用稲の直播技術等の研究成果に関する公開シンポジウムを青森市及び盛岡市で開催した。

<専門知識と技術を有する人材育成>

研究員の資質向上については、「農業研究センター研究員育成プログラム」(平成19年3月策定)に基づき、センター研究員研修計画を策定した。この研修計画にもとづき、依頼研究員等(3名)に研究員を派遣するとともに、可能性(FS)調査に2件2名を派遣した。また、北東北三県研究職員交流では、秋田県から2名を受け入れた。

予算管理面では、経理事務検討チームにより構築した「新たな予算の執行管理システム」を運用して、予算管理を行うとともに、「不正防止計画」に基づいたモニタリングと内部監査の実施により適正な経理事務を支援した。また、研究備品の更新計画をローリングした。

農業経営研究室

生産性の高い農業経営構造の確立に向け、①本県主要農産物の競争ポジショニングの提示、②沿岸地域農業の復興に資するビジネスモデルの提示、③営農計画作成支援情報の提供を研究の柱として業務に取り組んできた。

- ① 本県主要農産物の競争ポジショニングの提示では、「きゅうり」の需要動向について東京都中央卸売市場の統計分析により、岩手県は卸売数量の伸び率、市場シェアとも低い状態にあることを明らかにした。また、二戸の事例からヘルパー制度導入が反収向上に寄与することを示唆した。
- ② 沿岸地域農業の復興に資するビジネスモデルの提示では、高規格ハウスにより大規模園芸経営を目指す農業法人に対して、経営管理計画の立案支援や6次産業化による所得向上を目指す経営体の経営改善支援を行ってきた。特に(株)JAおおふなとアグリサービスについては、復興交付金のハード事業計画立案から支援を行い、事業採択後も平成26年夏からの施設稼働を円滑に行うため、栽培管理計画、労務管理計画に関して重点的に支援を行った。
- ③ 営農計画作成支援情報の提供では、(独)中央農業総合研究センターと連携し食料生産地域再生のための先端技術展開事業による研究を実施した。5か年の研究により、14品目の技術体系を組み立て岩手県生産技術体系の補完に資するとともに、先端技術の導入効果と導入条件に関する研究に取り組み、「将来の農業経営像」をシミュレーションするための判断材料を充足する。

(3)技術部

果樹研究室

果樹は、リンゴを主体に、ブドウ、西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーなどの樹種に係る試験を実施している。特に、早生から晩生までを網羅するオリジナルりんご品種の開発を掲げ、「つがる」に代わる早生品種と「ふじ」に匹敵する晩生種を開発を重点課題としている。また、温暖化によるリスクの解消、軽減を図るため、ツル割れや落葉遅延の原因解明を含め、凍霜害、裂果等のリスク対策の開発に努めると共に、果樹作業の軽労化につながる栽培技術の開発に向けた課題を実施している。

加えて、今年度から東日本大地震・大津波被害地域の復興を目的とした、国庫委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開研究」を導入し、リンゴ、ユズ、ブドウの生産・加工技術の実証研究として、センター内の他、陸前高田市に実証圃場を設置するなどし、被災地復興支援に取り組み始めた。

以上の取り組みから、今年度は以下の5つの研究成果を公表した。

- (1) リンゴ「紅いわて」は、デンプン反応指数2以下、糖度13%以上、満開起算日数130~140日を目安として収穫適期を判断し、果実全体に完全に着色した果実を収穫することで、高品質な果実が収穫できることを明らかにした。

- (2) リンゴ品種「紅いわて」「大夢」「はるか」「黄香」「もりのかがやき」は、摘果剤(NAC水和剤)による摘果効果が認められ、「大夢」「黄香」は満開 2 週間後、「紅いわて」「もりのかがやき」は満開3週間後で散布すると摘果効果が得られることを明らかにした。
- (3) リンゴ「はるか」は11月中旬に成熟する晩生の黄色品種で、糖度が高く、ミツが入り、食味が良好である。また、果台長が25mm 以上の花叢に着果させた場合青み果の発生割合が高いことを明らかにした。
- (4) ブドウ「エーデルロツ」の花穂整形は、開花始期に副穂を除去し、花穂長を9cm 以上にし、花穂の先を切り詰めないことで、良好な果房が得られ、適性着果量は、1葉当たり、果実重で 13g 程度(1新梢当たり 0.75 房)であることを明らかにした。
- (5) おうとうの垣根仕立て栽培において、結実生の高い「紅秀峰」は適応性が高く、密植することで、立木仕立て栽培法よりも多くの初期収量を確保できることを明らかにした。

作物研究室

<水稲育種チーム>

水稲の奨励品種決定調査および水稲品種開発に取り組んだ。

(水稲品種)

奨励品種決定調査では、本調査において粳7品種・系統、糯2系統を供試し、現地調査では粳を12か所、糯を2か所で検討した。本調査と予備調査結果を踏まえ、粳の早生で「岩手106号」、「ふ系238号」、中生で「岩手107号」、「北陸255号」、晩生で「岩手108号」、「岩手111号」、糯で「ふ系糯234号」を26年度の本調査に供試することとした(試験研究成果書(行-02)、(行-03))。

(水稲育種)

いわてブランド米品種開発推進事業に取り組んだ。生産力検定本試験で49組合せ98系統を供試し、生育並びに収量調査および各種特性検定試験の結果に基づき、「岩手112号」(早生の中、多収、いもち極強)、「岩手113号」(中生の中、良食味、良質、多収)、「岩手114号」(晩生の中、良食味、良質、多収、耐冷性極強10)、「岩手115号」(非主食用、中生の中、耐倒伏性強、直播適性に優れる)、「岩手116号」(飼料用、晩生の中、大粒、極多収)の5系統を選抜した(行-04)。

平成22年度から(独)東北農業研究センターおよび(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所と共同で取り組んでいる「東北地域中北部向け多収品種の共同育成」は、23年度から農林水産省委託プロジェクトの「国産飼料(1系)コンソーシアム」の構成員として委託課題「11002c 多収でいもち病抵抗性・耐冷性・識別性を有する飼料用米品種の育成(東北地域中北部向けのいもち病抵抗性評価と多収性飼料用米系統の選抜)」において平成26年度まで取り組むこととしており、本年度の「岩手116号」(前出)を配布系統とした。

また、(公財)岩手生物工学研究センターと連携し、分子マーカーを用いた選抜に取り組んだ。特に、生工研を代表機関として共同課題「ひとめぼれゲノム資源を活用した重要遺伝子同定と実用品種育成」が「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」に移行採択され、本年度から2年計画で「ひとめぼれ」突然変異系統群並びに組み替え近交系の遺伝資源を材料として「ひとめぼれ」に極良食味、高度いもち病抵抗性、初期伸長性、耐倒伏性を導入しDNAマーカー選抜法により「スーパーひとめぼれ」を育成することとなった。

<作物栽培・種子チーム>

水稲・畑作物(麦類・大豆)栽培試験、同作柄解析、同品種選定、主要農作物(水稲・小麦・大麦・大豆)原種・原々種生産に取り組んだ。

(水稲栽培)

作況調査・作柄解析については、所内の作況試験データ(本部および県北研究所)・現地生育データ(農業改良普及センター)・気象データ(盛岡地方気象台)・土壌栄養(生産環境研究室)・病虫害(病理昆虫研究室)・作柄(東北農政局)・品質情報(同)を総合的に解析し、当年及び次年度以降の技術対策指導に供した(指-03)。当成果においては、平成25年度の特徴的な事項として寡照低温による穂数減少など作柄と品質に及ぼした影響と穂いもちの発生要因について詳細に解析した。

平成20年からの疎植栽培の試験結果を基に研究成果「岩手県における水稲品種「ひとめぼれ」の疎植栽培の特徴」(指-04)としてとりまとめた。「結の香」の栽培法を、研究成果「大吟醸酒向け水稲品種「結の香」の栽培の目安」(指-39)としてとりまとめた。

(麦類)

麦類奨励品種決定調査では、小麦5品種・系統、大麦4系統を供試した。小麦では「製パン適性に優れ穂発芽に強い超強力小麦「銀河のちから」」を研究成果(普-01)としてとりまとめ、奨励品種に採用した。

また、普及員等指導者の技術指導に資するため、試験研究成果として「平成 25 年岩手県産小麦の雨害による品質低下の要因」(指-09)をとりまとめた。

特性検定では、麦類耐寒雪性を(独)作物研究所からの請け負いで実施した。小麦および大麦をそれぞれ 70、50 品種・系統を供試した。

(大豆)

大豆奨励品種決定調査では、3 系統を供試し、「シュウリュウ(東北 166 号)」を有望として、「多収、高品質、豆腐加工適性に優れる大豆「シュウリュウ」」を研究成果(普-03)してとりまとめ、奨励品種に採用した。「シュウリュウ」の栽培法として、研究成果「多収、高品質大豆「シュウリュウ」の栽培法」、及び「除草剤ベンタゾン液剤に対する大豆「シュウリュウ」の反応特性および葉害を軽減する散布方法」(指-08)をとりまとめた。

また、普及員等指導者の技術指導に資するため、試験研究成果として「平成 25 年岩手県産大豆の生育経過の概要と特徴」(指-10)をとりまとめた。子実重は平年並となったが、収穫期の降雨の影響でしわ粒および変質粒等の被害粒が多かったことを示した。

立枯性病害抵抗性検定試験は、40 系統・品種を供試した。

(種子生産)

水稻種子生産(主要品種)では、原々種はうるち 4 品種 269kg、もち 2 品種 150kg、原種はうるち 8 品種 25,000kg、もち 1 品種 3,280kg を生産した。

小麦では、原種は「ナンブコムギ」を 2,880kg、「ゆきちから」を 3,900kg 生産した。大豆原々種は「シュウリュウ」を 75kg、原種は 2 品種「ナンブシロメ」を 1,745kg 生産した。また、小豆の原種を 2 品種 28kg 生産した。

野菜花き研究室

野菜花き研究室では、「農林水産技術立県いわて」の確立のため、以下の基本方針に沿って野菜、花きの作目毎 2 チーム体制で試験研究に取り組んでいる。(1)消費ニーズ及び将来の動向を見越した本県に適する花き(リンドウ)の新品種の育成・選抜、(2)顧客の視点に立った園芸品目の省力・低コスト生産技術の開発(3)生産の安定に直結する優良な原種苗等の正確かつ安定的な供給

<野菜チーム>

野菜は、「顧客の視点に立った園芸品目の省力・低コスト生産技術の開発」を着実に推進するため、果菜類では、施設栽培トマト、パプリカの高品質・安定多収技術、露地ピーマンの効率的施肥法、キュウリの土壌病害軽減技術、新形質キュウリの安定生産技術等に取り組んでいる。茎葉菜類では、国内生産量がほとんどない 11 月の促成アスパラガス栽培技術の確立、ハクサイの冬～春生産を可能にする新品種・作型の開発に向けた課題を実施している。

なお、今年度から東日本大地震・大津波被害地域の復興を目的とした、国庫委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開研究」を導入し、キュウリ、パプリカ、トマトの生産・加工技術の実証研究として、センター内の他、陸前高田市・大槌町に実証圃場を設置するなどし、被災地復興支援に取り組み始めた。

トマトでは、「長期安定収穫が可能なトマト栽培技術の確立」として、低温期に生じる障害果の発生回避技術確立による初期生産の安定化及び高温期における草勢管理技術の確立に取り組んだ。また、「中山間地域における施設園芸技術の実証研究」として「分散する中小規模園芸施設の効率的な管理技術の実用化実証」に取り組む、「養液栽培におけるハウストマト・キュウリの個体葉面積推定法」及び「ユビキタス環境制御システムに対応した簡易量管理給液ノードの開発」(ともに研究)として成果公表した。

パプリカは、新産地の育成を目指し、本県の夏期冷涼な気象を活かした安定生産技術について研究開発を行っており、「収穫量の時期別変動が小さいパプリカ安定栽培技術の確立」に取り組んだ。また、沿岸被災地域に復旧した水稻育苗施設の高度利用に資するため、簡易な隔離床栽培法を考案して実証を行い、設置及び撤去が容易であり実用性を確認した。また、軒高の低い育苗ハウスを有効活用するための収穫位置を低くするための育苗期摘心の効果を確認した。さらに、有望品種の選定を行った。

キュウリは、共同で開発した安価な「かん水同時施肥装置」を活用し、露地夏秋作型キュウリの栽培を行い、装置の性能に問題はなく、生育後半まで栽培が可能であることが確認された。また、被災した陸前高田市の主力品種である「大望」において、慣行の栽培法に比べ収量が3割増加した。なお、新形質キュウリであるスムーズキュウリが、日本型F1品種と同等の食感を有していることが明らかとなり、同じく新形質キュウリのペイトアルファキュウリは初期収量が優れていることを明らかにした。

ピーマンでは、中央農業総合研究センターの委託プロジェクトにより、低コスト養液土耕装置を利用した効率的施肥法に取り組んだ。適正なかん水管理により収量・品質向上と効率的な養液土耕による施肥量削減を目指して、所内試験の露地作型及び遠野市、九戸村の現地試験に取り組む、高い評価を得た。

アスパラガスでは、「岩手型アスパラガス伏せ込み促成栽培安定生産技術の確立」(24～26)により、新たな、休眠打破方法

や、低温の温度域の違いによる休眠打破効果の違い等のメカニズムを解明し確実に休眠打破を図る技術開発や、早期出荷が可能となる新作型の確立に取り組んでおり、「アスパラガス伏せ込み促成栽培に適した品種「ウィンデル」の特性」として成果公表した。(成果区分:普及)

この他、ハクサイでは、国独法、大学、民間種苗会社との共同研究課題「長日要求性素材を利用した極晩抽性ハクサイの新作型の開発」(H24~26)に取り組む、現時点の育成途中品種ではあるが、有望なF₁ 組み合わせを用い、ハウスとべた掛けの利用による3月どりの作型と露地における5月、6月どりの作型を実証した。

<花きチーム>

花きは、世界に発信する「リンドウ王国いわて」の確立に向けて、主産地としての優位性を維持するために、研究対象をリンドウに特化している。特に、市場の需要を満たし、さらには需要を作り出すためのオリジナル品種開発を最重点課題としている。

また、これまでに開発したオリジナル品種の原々種維持、原種増殖と種苗センターへの供給、生産性の高い省力・低コスト安定生産技術の確立に向けた課題を実施している。

リンドウの品種開発では、有望F₁ 系統の組合せ検定を実施し、既存晩生品種「ジョバンニ」(9月上中旬開花)の代替品種として有望な2系統を試験研究成果として取りまとめた。

併せて、既存極早生「キュースト」、「マシイ」、および早生品種「イーハトーヴォ」、「マジエル」の代替品種を早急に育成すべく、有望F₁ 系統の組合せ検定を実施した。

また、平成23年度に品種登録出願した「いわて夢みのり」(いわてLB-2号)は、H26.1.23付けで品種登録が公表された(第22946号)。

「純系リンドウとDNAマーカーを利用した品種育成技術の開発」で得られた成果を活用し、未受精胚珠の培養により得られた倍加半数体個体に由来する系統のうち23系統から自殖種子を採種し、純系を用いたF₁ 採種を目指して19系統の特性調査を実施した。期待したとおり草姿や開花期が良く揃い、今後も引き続き供試系統を追加し、特性調査を進めていく予定である。

リンドウ種子供給に関して、原々種の安定採種、親株の大量増殖と供給に取り組む、ほぼ計画数量どりの親株を種苗センターに供給した。これら採種親株の管理について、種苗センター現地ほ場を確認しながら、毎月関係機関で検討会を実施した。

リンドウ系統の早晩性による温度反応差を把握し、適正な増殖条件の解明とリンドウにおける赤色や青色LED光光源を利用した増殖率向上技術を検討を目的とした「早晩性の違いによるリンドウ組織培養の増殖条件の確立」(H23~26)では、培養シュートでの赤色光での増殖を確認したものの、花芽形成もみられ、増殖への実用化は時間差が見られた。

この他、オリジナル極早生品種の株養成技術の開発など、現場からの要望課題について、引き続き取り組んでいる。

南部園芸研究室

南部園芸研究室は平成23年3月11日に発生した震災により研究施設等が全壊・流失したため、平成25年度も本部で研究を行った(平成26年1月6日から陸前高田市で業務再開)。トマト3段階心新栽培様式の確立試験は、これまで本部のは場で行なってきたが、年度途中から宮城県山元町の実証試験地内施設でシンターブランティング等試験を開始した。イチゴの夏秋どり作型に適する品種比較試験では、夏季高温条件下であったが、収量・品質面で優れる「すずあかね」が有望と認められ、成果としてまとめた。今年度で終了となる実用技術開発事業課題「涼しい夏を活かす!国産夏秋イチゴ安定多収技術の開発・実証」では、一季成り性品種の特性や降温技術等を成果としてまとめた。木質系資源の有効利用技術の開発では、粉碎杉樹皮培地利用によるトマト隔離床栽培として成果にまとめ、今後製品化に結び付けたいところである。木質バイオマス加温機のハイブリッド化を図り、燃焼試験を行なった結果、これまでの8時間を超える燃焼時間を確保できる見込みである。引き続き、イチゴ閉鎖型高設栽培システムにおける局所温度管理法について同加温機を利用し試験を継続予定である。

(4) 環境部

生産環境研究室

生産環境研究室では、安全で、安心できる農産物の安定的な生産・供給や環境に配慮した農業の振興を図り、岩手ならではの産地づくりに寄与するため、①環境への負荷軽減に配慮した持続的な土壌・施肥管理技術、②消費者の多様なニーズに対応した高品質農産物の安定供給技術を柱とした研究課題に取り組んだ。

特にも、鶏ふん堆肥に窒素肥料を添加した「高窒素鶏ふん肥料」の製造と利用技術の開発については、堆肥製造メーカーとともに肥料を共同開発し、安定的な製造方法を確立、製品化に至った。5年間の試験の最終年度であり、製品化された肥料

の実用化を目指し、農業研究センター内の圃場及び現地圃場において最終的な実証試験に取り組んだ。

また、津波で被災した農地の復旧対策としては、山土を客土として平成 25 年度春に復旧した水田において、水稻の生育、収量調査を行い、復旧水田における水稻栽培の課題を抽出するとともに、平成 26 年度の復旧工事に向けてガレキ分別土の客土材としての利用について検討するため、ポット試験と枠試験を実施した。

東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射性物質対策としては、農業研究センターと中央農業改良普及センターで構成する「放射性物質に係る農業技術対策調査検討チーム」(平成 23 年 9 月設置)におけるこれまでの調査研究の結果を踏まえ、放射性物質がほとんど検出されない作目は調査対象から除き、果樹剪定枝と土壌における放射性物質の経年変化に絞って調査した。

今年度の取組みの成果は、普及成果として「鶏ふん堆肥に尿素を添加したL型肥料の開発」をとりまとめ、水稻やキャベツ栽培において高窒素鶏ふん肥料が化学肥料と同様の生育、収量を確保できることを明らかにした。また、これまで 30 年にかけて取組んできた県内の土壌調査の結果を「県内水田土壌の 30 年間の施肥管理と土壌化学性の変化」、「県内畑土壌の 30 年間の有機物施用と化学性の変化」として取りまとめた。水田の復旧工事に向けて取組んだガレキ分別土の利用についての調査結果は、「ガレキ分別土の農地作土利用における水稻生育への影響」として取りまとめた。

その他には、トマト栽培における適正な窒素施肥肥料についての研究や、大豆の低収解明のための現地の土壌物理性調査等に取り組んだ。

病理昆虫研究室

持続性が高く安定性のある農業生産目指した病虫害制御技術の確立を進めるため、環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病虫害防除技術、生物的防除など環境にやさしい病虫害防除技術及び病虫害総合管理技術 (IPM) の開発に取り組んだ。

水稻分野では、品種「ひとめぼれ」を対象に、穂いもち防除実施の有無による収量・品質に関し検討し、穂いもち被害度と減収率、出穂期における上位 3 葉の株あたり病斑数との関係を明らかにし、学会で発表した (第 67 回北日本病虫害研究発表会)。

野菜分野では、ホウレンソウの白斑病に対する品種間差異や有効な防除薬剤を明らかにし、研究成果 (指導) として取りまとめるとともに、その成果を学会で発表した (第 66 回北日本病虫害研究発表会)。また、転炉スラグを利用して土壌 pH を 7.5 に改良することにより、ホウレンソウ萎凋病の発病抑制効果があることを明らかにし、研究成果 (指導) として取りまとめた。一方、施設果菜類 (ピーマン、なす及びパプリカ) において、天敵製剤と光反射防虫ネットや光反射シート等の物理的防除の組み合わせがアザミウマ類に対して防除効果があることを明らかにし、研究成果 (指導) として取りまとめるとともに、施設ピーマンにおいて新たな天敵製剤であるリモネカスカブリダニのアザミウマ類に対する防除効果を検討し、その結果を学会で発表した (第 67 回北日本病虫害研究発表会)。さらに、だいこんを加害するキスジノミハムシに有効な防除体系を明らかにし、研究成果 (指導) として取りまとめた。

果樹分野では、リンゴ腐らん病の果台感染に対する薬剤の防除効果を検討し、その結果を学会で発表した (第 67 回北日本病虫害研究発表会)。また、近年被害が深刻化しつつあるリンゴの枝幹害虫ヒメボクトウに対し、フルベンジアミド剤の防除適期と防除効果を明らかにし、研究成果 (指導) として取りまとめるとともに、その成果を学会で発表した (第 66 回北日本病虫害研究発表会)。

なお、学会等には積極的に参加し、前記を含み日本土壌微生物学会 1 件、日本ダニ学会 1 件、日本植物病理学会東北部会 1 件、日本応用動物昆虫学会 1 件、北日本病虫害研究会では 5 件について口頭又はポスター発表し、本県の成果を PR した。

(5) 病虫害防除部

病虫害防除課

(病虫害発生予察)

水稻、麦類、大豆、りんご、きゅうり、キャベツ、ねぎ、りんどうを対象として発生予察調査等に基づき、7 回の定期情報に加え、注意報を 4 回 (水稻:細菌病、いもち病、きゅうり:べと病・炭そ病、野菜・花き類:タバコガ類)、特殊報を 2 回 (わらび:ルイスコムツキモドキ、クロアシコムツキモドキ、オクラ:オクラ輪紋病) 発表した。また、防除速報を 14 回 (水稻:斑点米カメムシ類 3 回、取り置き苗処分、葉いもち 3 回、紋枯病、小麦:雪腐病、赤かび病、大豆:ウコンノメイガ、りんご:モニア病、ネギ:ネギアザミウマ、野菜・花き類:オオタバコガ) 発行した。これらの情報については、電子メール、印刷物のほか、いわてアグリベンチャーネットにも掲載し、関係機関・団体、共同防除組合等に提供した。

(病虫害防除指導)

効率的な薬剤防除並びに生物的防除法、耕種的防除法および物理的防除法を組み入れた総合防除の地域への定着を

図り、環境に配慮した持続的農業を推進するため、病虫害防除員、関係機関・団体と緊密な連携をとりながら、「市町村病虫害防除計画」に基づいた防除の実施を推進した。

水稻においては、各地方の病虫害防除員協議会および病虫害防除連絡協議会、市町村病虫害防除協議会、稲作部会等が中心となり取り組んでいる地域の一斉点検調査とその結果に基づく防除指導に対し、随時支援・指導を行った。また、巡回調査地点の農家 94 件の防除実績等を収集し、発生要因解析を行い、次年度以降の防除指導の資とした。

園芸作物では、りんごについて地域の防除暦作成にあたって普及センター担当者等とともに検討を行った。また、県内 71 の共同防除組合等から防除実績を収集、解析して次年度の防除計画の改善に資した。野菜では 22 件、りんごは 14 件の農家の防除実績を収集、同様に次年度の防除計画に資した。

病虫害防除員に対しては、上記の調査活動や防除指導への支援の他、植物防疫実績検討会および諸会議、研修会等を通じて情報の共有と資質の向上を図った。

重要性が増してきている病虫害診断は、86 件の依頼に対応した。作物別の内訳は、野菜が最も多く(42%)、次に花き(38%)、果樹(10%)の順であり、原因別には、病害が 42%、虫害が 13%で、次に不明、生理障害・葉害の順であった。

(農薬適正使用指導)

農薬の適正な販売や使用を徹底するために、農薬の販売者や使用者に対する研修会を関係機関・団体と共同で開催した(7月11日、参加者 217 名)。また、農薬取締法に基づき、農薬販売者への立入検査を実施するとともに(470 件)、農薬使用基準違反のあった使用者に対し指導を行った(1 件)。

(6) 畜産研究所

家畜育種研究室

<家畜育種>

(肉用牛) 日本短角種:種雄牛造成では H24 直接検定牛 15 頭(平均 DG1.56kg)から、現場後代検定用 6 頭(選抜率 40%、平均 DG1.54kg)を選抜した。現場後代検定では H21 交配種雄牛 5 頭(「辰福」、「上川」、「福富」、「花里」、「彦村」)の成績を公表した。

黒毛和種:黒毛和種去勢肥育牛における尿石症の発症予防を目的に、肥育中期以降の給与飼料中の非繊維性炭水化物(NFC)と分解性蛋白質(DIP)との比率(NFC/DIP)に着目して試験を行った結果、NFCとDIPの比率が概ね4対1の場合に、5対1及び6対1と比較して尿石症発症リスクが高まることを明らかにした。また、肥育中期(14~21か月齢)にBUNが21mg/dl以上で、尿石症発症率が高くなることも明らかにした。

(養豚) 現地農場と連携して、パークシャー種豚群の遺伝的改良およびパークシャー種肥育後期に飼料用米配合割合55%で代替した飼料給与試験に取り組んだ。

パークシャー種肥育後期に飼料用米55%を給与した豚の皮下脂肪ではオレイン酸が高まるとともに、リノール酸が低下し、官能評価による評価が高くなることが明らかとなった。

(養鶏) 新軍鶏の改良では雄の第四世代で112日齢時に第一世代よりも7%増となり、雌の産卵率、雄のモモ肉重量について改良が進んだ。

<家畜工学>

(遺伝子解析)種雄牛「金菊徳」産子のQTL解析から枝肉重量、BMS ナンバー、ロース芯面積に影響する遺伝子座を4か所に検出した。枝肉重量における22番染色体、BMS ナンバーにおける25番染色体では有意な領域が検出され、後継種雄牛選抜に利用可能なマーカーとして期待できることが分かった。

県内の和牛集団において地方病性牛白血病の発症抵抗性との関連が報告されているSNPが認められた。また、このSNPを改良マーカーとして利用した場合、産肉形質に負の影響はないことを明らかとした。

家畜飼養・飼料研究室

<飼養>

育成牛に搾乳用 TMR を活用した飼料を給与することで、必要な栄養量の充足が容易となり、良好な発育と初産分娩月齢 22.5 か月齢が達成できることを明らかにした。

大豆 WCS が乾物比で 20% 含む発酵 TMR 給与は、産乳性、消化性で大豆粕利用 TMR と差が認められないことを明らか

にした。

光触媒(酸化チタン)を用いた換気装置により、畜舎内の臭気物質(硫黄化合物)が低減することを明らかにした。

<飼料>

飼料用とうもろこし栽培において、土壌中の可給態リン酸含量が土壌改良目標値(16mg/100g)を上回っている場合、リン酸の補給型施肥基準量は 9kg/10a(乾物収量 2,000kg/10a)であることを明らかにした。

飼料用トウモロコシ市販品種について、極早生 1 品種、早生 6 品種、中生 3 品種、晩生 5 品種の生育特性、耐病性、収量性等について調査し、優れた品種特性を持つ 2 品種について優良品種として選定した。

草地更新翌春の除草剤について、チフェンスフロムチル剤の効果が高く、アジテム剤では強い葉害が発生することを明らかにした。

<牧草の放射線対策>

関係機関による除染プロジェクトチーム活動に参画し、牧草地における放射線対策のための肥培管理、耕起状況等に関する調査を実施し、草地更新後の牧草中放射性セシウム濃度に及ぼす要因を明らかにした。また、牧草・土壌のミネラルモニタリング 383 点、畦畔草の放射線スクリーニング検査を 424 点実施した。

外山畜産研究室

<飼養>

日本短角種の周年出荷へ向けた飼養管理技術では、放牧前舎飼期の経産牛に種雄牛を自然交配させることにより出生時期を分散可能であること、また、産子の発育や、その後の肥育成績は放牧期自然交配産子と同等であることを明らかにした。自然交配後の追い移植では、高い双子分娩率(最終年度 60%)が得られた。

黒毛和種の妊娠中後期における冬期飼養技術では、冬期屋外飼養の繁殖牛の分娩後の繁殖性に負の影響がないことを確認した。

<飼料>

放牧地の春期更新・早期利用技術体系の確立では、雪解け後 5 月上旬耕起、中旬播種により、オーチャードグラス 2.5kg/10a+イタリアンライグラス 0.5 kg/10a の混播割合が有効であることを明らかにした。

低温性乳酸菌添加による牧草サイレージおよび発酵 TMR の品質向上では、(独)農研機構畜産草地研究所が開発中の低温性乳酸菌 3 株が 4℃・30 日の保存で従来利用されている中温性株より有意に乳酸菌含量が増加することを確認した。

種山畜産研究室

<いわて和牛改良増殖対策事業>

黒毛和種改良事業の一環として、県内産黒毛和種種雄牛候補 13 頭を選定するとともに畜産研究所生産の受精卵雄産子等 4 頭計 17 頭の直接検定を実施し、後代検定を実施する候補種雄牛として 5 頭(「福秀幸」「辰美継」「八雲」「育福助」「菊勝鶴」)を選抜した。

また、平成 20 年度の直接検定により選抜された「古都乃花」「春善茂」「北茂鶴」「平安茂福」「月山桜」の 5 種雄牛について現場後代検定を実施し、うち成績が優れた「古都乃花」「平安茂福」「月山桜」を新たに基幹種雄牛として選抜した。

<県有種雄牛の情報発信>

市場成績(毎月)、種山種雄牛だより(毎月)を発行し、家畜市場等において配布したほか、家畜人工授精師を対象として、種雄牛の能力情報等をダイレクトメールで配信した。

(7) 県北農業研究所

園芸研究室

- (1) 県北地域の立地特性を活用した園芸作物の安定生産技術の確立に向け、野菜ではハウレンソウケナガコナダニの総合防除体系、地域の誘致企業向けの加工業務用ねぎの栽培法、春まきたまねぎの作型開発、花きでは無側枝性ギク露地栽培技術の確立を中心とした課題に取り組んだ。
ハウレンソウケナガコナダニの総合防除体系については、前年度に既存の剤と同等以上の効果が認められた3剤について散布時期による葉害発生程度の差を検討し、発芽直後の散布ではいずれの剤でも葉害が生じないことを明らかにした。また、一部の剤については1000倍と2000倍で同等の効果が得られること、既存の剤との組み合わせで2回散布する場合の適当な散布時期を明らかにした。
- (2) 加工・業務用ねぎの栽培法については、作型ごとに有望な品種を絞り込むとともに、加工の際に問題となる空洞について、発生しやすい時期、品種、生長経過があることを確認した。出荷期間の拡大に向け大苗の4月定植や収穫物のハウス貯蔵を継続検討した。また、加工用に適した規格(青果用のM規格にほぼ相当)の割合が高まる栽植密度を9月収穫、11月収穫の作期別に明らかにし、試験研究成果として公表した。
- (3) 無側枝性ギクでは、8～9月咲き有望品種の特性把握試験を開始するとともに、8月の需要期出荷に向けた開花調節や花首伸長抑制のための成長調整剤の処理方法及び苗質安定化のための母株管理技術について継続検討した。施肥法については栽培体系の重要事項として取り組み、8月咲き、9月咲き各3品種の適正な窒素施肥量を明らかにして試験研究成果として公表した。
- (4) この他、農業改良普及センターからの要望に基づき、雨よけほうれんそうの難防除雑草であるゴウシュウアリタソウに対する数種の土壌くん蒸剤の効果を現地試験によって明らかにし、試験研究成果として取りまとめた。

作物研究室

- (1) 雑穀に関する課題「いわて雑穀生産・販売戦略を支援する品種開発と持続的安定生産技術の確立」(H22～26)は、目標が達成されたことから、1年前倒しで終了し、次年度から、新たな課題に取り組むこととした。なお、今年度は、顕色が濃い大粒糯品種「キビ岩手糯1号」を育成・成果公表した。
畑輪作技術では、地域課題(地域経営推進費、3年目)として取り組み、「雑草発生量の少ない雑穀畑輪作技術」として、雑穀を基幹とする輪作体系及び葉たばこを組み入れた雑穀・大豆との輪作体系の2モデルを提示した。
7月の低温により水稻への影響が心配されたことから、県北部を中心に不稔発生及び稔実などの調査を主力品種「いわてっこ」について重点的に行った結果を成果情報として提供した。
- (2) 原種生産については、雑穀を計画どおり生産・確保した。また、水稻、小麦、大豆の奨励品種決定調査、作況調査・作柄解析についても実施し、本部作物研究室との連名で成果情報を提供した。
- (3) 県北地域の食の新たなシーズ掘り起こしと商品化の支援する農商工連携・6次産業化支援に、振興局食産業との協働で取り組んだ。県が新たに育成した低アミロース米「きらほ」、及び雑穀(あわ)「ゆいこがね(出願公表中)」、(きび)「キビ岩手糯1号」を用いて、食品企業や岩手大学と連携しながら、それぞれ「さば寿司」や「あわせんざい」等の商品づくりのプロジェクト活動を進め、商品化された。

4 平成25年度試験研究課題

(1) 細目課題分類

研究推進計画分野 担当部所	総課題数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
		農業構造・経営管理	水稲	畑作物	果樹	野菜	花き	作業技術	環境保全	土壌作物栄養	病害虫制御	食の安全	乳用牛	肉用牛	中小家畜（豚・鶏）	草地・飼料作物	家畜バイオテクノロジー	畜産環境	県北農業振興	震災復興
プロジェクト推進室	17		3	5				8		1										
企画管理部	16	4	1	5	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
農業経営研究室	16	4	1	5				5												1
技術部	183	0	65	14	36	31	11	3	6	6	5	3	0	0	0	0	0	0	0	3
果樹研究室	46				35				6	1	2	1								1
作物研究室	84		64	13				3		1	1	1								1
野菜花き研究室	35					18	11			3	1	1								1
南部園芸研究室	18		1	1	1	13				1	1									0
環境部	37	0	3	3	2	1	1	2	1	7	11	2	0	0	0	0	0	0	0	4
生産環境研究室	22		2	2	1	1		2	1	7		2								4
病理昆虫研究室	15		1	1	1		1				11									
畜産研究所	29	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	9	3	7	3	2	0	0
家畜育種研究室	9												1	2	3		3			
家畜飼養・飼料研究室	11			1									3	1		4		2		
外山畜産研究室	5													2		3				
種山畜産研究室	4													4						
県北農業研究所	28	0	5	6	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	12	0
園芸研究室	9			1					1	1	1								5	
作物研究室	19		5	5						1	1								7	
総計	310	4	77	34	38	32	12	18	8	16	18	5	4	9	3	7	3	2	12	8

※複数の分野に再掲されている研究課題はそれぞれに計上。

複数の担当研究室がある研究課題はそれぞれに計上。

(2) 試験研究課題一覧

凡 例

- ・主査: 小課題の主査研究室
- ・No.: 小課題の連番、課題毎の固有番号はそれぞれの課題名の先頭に()表記
- ・課題: (課題番号)課題名を記載、小課題は太字表示
※ 課題番号: 細目課題は1000番代表記、細目1~4まで各桁毎の表記
- ・開始・終了: 課題の実施～終了年数
- ・予算区分: 国庫補助; 国庫補助事業、国庫委託; 国庫委託事業、独法委託; 独法委託事業、民間委託; 民間委託事業
令達; 令達予算研究、県単研究; 県単予算予算、県単採種; 主要農作物採種管理費
- ・担当: 小課題、細目課題の担当研究室名

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【プロジェクト推進室】						
プロジェクト	1	(H24-01)水田転換畑における作物の生産性向上技術の確立	24	26	県単独	プロジェクト
プロジェクト		(H24-01-1000)転換畑における大豆生産性向上技術の総合実証	24	26	県単独	生産環境、作物、農業経営、プロジェクト
プロジェクト		(H24-01-1100)転換畑大豆の現地における低収要因の解明	24	26	県単独	生産環境、農業経営
プロジェクト		(H24-01-1200)転換畑に適する品種および栽培法の検討	24	26	県単独	生産環境、作物、農業経営、プロジェクト
プロジェクト		(H24-01-2000)転換畑における湿害軽減播種技術の体系化	24	26	県単独	プロジェクト、農業経営
プロジェクト		(H24-01-2100)小畦立て播種栽培に適応できる大豆の機械除草技術の確立	24	25	県単独	プロジェクト、農業経営
プロジェクト		(H24-01-2200)密条用小畦立て播種栽培に適応できる小麦の管理作業技術の開発	24	26	県単独	プロジェクト、農業経営
【農業経営研究室】						
農業経営	2	(H21-02)本県主要農産物の需要・競争構造の分析	21	25	県単研究	農業経営
農業経営	3	(H21-04)農業技術体系データベースの整備・拡充	21	25	県単研究	農業経営
農業経営	4	(H24-02)沿岸地域農業の復興に向けた新たなビジネスモデルの構築	24	26	県単独	農業経営
【作物研究室】						
作物(技術)	5	(803)水稻奨励品種決定調査	14	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-1000)予備調査	14	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-1100)中晩生系統	14	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-1200)早生系統	14	25	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(803-2000)本調査	14	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-2100)中晩生系統	14	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-2200)早生系統	14	25	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(803-3000)現地調査	14	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	6	(805)水稻作況調査と作柄成立要因の解析	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-1000)水稻作況調査	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-1100)県央・県南地域	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-1200)県北地域	14	25	県単研究	作物(県北)
作物(技術)		(805-2000)水稻優良品種の気象反応試験	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-2100)県央・県南地域	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-2200)県北地域	14	25	県単研究	作物(県北)
作物(技術)		(805-3000)水稻作柄成立要因の解析	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)	7	(61)水稻原々種生産	S29	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	8	(62)水稻原種生産	S29	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	9	(807)水田雑草の効果的防除技術の開発	14	25	民間委託	作物(技術)
作物(技術)		(807-1000)水稻作用除草剤第2次適用性試験	14	25	民間委託	作物(技術)
作物(技術)		(807-1100)県央・県南地域	14	25	民間委託	作物(技術)
作物(技術)		(807-1200)県北地域	14	25	民間委託	作物(県北)

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
作物(技術)	10	(H22-rb01)主食用米等品種の育成(コシヒカリを超える米)	S59	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-1000)交配母本評価と交配	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-2000)初期世代養成	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-3000)個体選抜	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4000)系統選抜	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4100)単独系統	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4200)生産力検定予備試験系統群	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4300)生産力検定本試験系統群	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5000)生産力検定	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5100)生産力検定予備試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5200)生産力検定本試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5300)生産力検定試験早生系統	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6000)特性検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6100)いもち病真性抵抗性遺伝子型推定	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6200)葉いもち圃場抵抗性検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6300)穂いもち圃場抵抗性検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6400)耐冷性検定試験(育成系統)	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6500)食味官能試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6600)食味関連成分分析及び物性試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6700)穂発芽検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6800)直播適性	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-7000)DNAマーカー等先端技術利用	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-8000)育成系統採種	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)	11	(H22-rb02)醸造用水稲品種の育成(山田錦を超える米)	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-1000)交配母本評価と交配	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-2000)初期世代養成	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-3000)個体選抜	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-4000)系統選抜	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-4100)単独系統	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-4200)生産力検定予備試験系統群	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-4300)生産力検定本試験系統群	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-5000)生産力検定	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-5100)生産力検定予備試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-5200)生産力検定本試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-5300)生産力検定試験早生系統	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6000)特性検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6100)いもち病真性抵抗性遺伝子型推定	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6200)葉いもち圃場抵抗性検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6300)穂いもち圃場抵抗性検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6400)耐冷性検定試験(育成系統)	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6500)食味官能試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6600)食味関連成分分析及び物性試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6700)穂発芽検定試験	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6900)醸造適性	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-7000)DNAマーカー等先端技術利用	S63	25	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-8000)育成系統採種	S63	25	令達	作物(技術)

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
作物(技術)	12	(H22-rb03)委託試験	S39	25	国庫委託、民間委託	作物(技術),作物(県北)
作物(技術)		(H22-rb03-2000)稲民間育成品種評価試験	H13	25	民間委託	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb03-3000)耐冷性検定試験(委託系統検定)	H18	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	13	(H21-24)東北地域中北部向け多収稲品種の共同育成	21	26	H21県単 H22~独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-3000)個体選抜	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4000)系統選抜	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4100)単独系統	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4200)生産力検定予備試験系統群	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4300)生産力検定本試験系統群	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-5000)生産力検定	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6000)特性検定試験	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6100)いもち病真性抵抗性遺伝子型推定	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6200)葉いもち圃場抵抗性検定試験	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6300)穂いもち圃場抵抗性検定試験	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6400)耐冷性検定試験(育成系統)	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6600)食味関連成分分析及び物性試験	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6700)穂発芽検定試験	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6800)直播適性	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-8000)育成系統採種	21	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	14	(174)えだまめ等オリジナル品種優良種苗の維持・増殖	8	25	合達	作物(技術)
作物(技術)	15	(877)大豆立枯性病害抵抗性検定試験	14	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	16	(889)麦類耐寒雪性特性検定試験	14	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	17	(890)畑作物の生育相及び気象反応の解明	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-2000)大豆の生育相と気象反応の解明	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-2100)県央・県南地域	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-2200)県北地域	14	25	県単研究	作物(県北)
作物(技術)		(890-1000)麦類の生育相と気象反応の解明	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-1100)県央・県南地域	14	25	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-1200)県北地域	14	25	県単研究	作物(県北)
作物(技術)	18	(891)畑作物原々種・原種生産	14	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	19	(H19-13)麦類奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査	19	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(H19-13-1000)(1)奨励品種決定調査(県南・県央地域)	19	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(H19-13-2000)(2)奨励品種決定調査(県北地域)	19	25	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(H19-13-3000)(3)有望系統特性調査	19	25	合達	作物(技術)
作物(技術)	20	(H19-12)大豆等奨励品種決定調査及び有望系統の特性調査	19	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(H19-12-1000)(1)奨励品種決定調査(県南・県央地域)	19	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(H19-12-2000)(2)奨励品種決定調査(県北地域)	19	25	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(H19-12-3000)(3)有望系統特性調査	19	25	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	21	(H22-33)北東北地域向け非主食用多用途稲の直播品種及び直播栽培等関連技術の開発	22	25	県単研究	作物(技術),プロ
作物(技術)		(H22-33-2000)寒冷地における湛水作溝同時直播栽培技術の確立・寒冷水田に適応した湛水作溝同時直播技術	22	25	県単	プロジェクト
作物(技術)	22	(H24-19)ひとめぼれゲノム資源を活用した重要遺伝子同定と実用品種育成	24	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H24-19-1000)重要形質遺伝子集積による「スーパーひとめぼれ」の育成	24	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	24	(H24-19)大規模遺伝子資源およびゲノム情報を活用した効率的な水稻品種育成	24	26	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H24-19-1000)重要遺伝子集積による「スーパーひとめぼれ」の育成	24	26	独法委託	作物(技術)

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【果樹研究室】						
果樹	23	(851)果樹の生育と果実品質変動要因の解明	14	25	県単研究	果樹
果樹		(851-1000)りんごの生育・生態の把握	14	25	県単研究	果樹
果樹		(851-2000)ぶどうの生育・生態の把握	14	25	県単研究	果樹
果樹		(851-3000)西洋なし、その他の果樹の生育・生態の把握	14	25	県単研究	果樹
果樹	24	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法	14	25	民間委託	果樹
果樹		(850-1000)果樹園用除草剤の効果的使用法	14	25	民間委託	果樹
果樹		(850-1100)民間委託試験分	14	25	民間委託	果樹
果樹		(850-1200)令達試験分	14	25	令達	果樹
果樹		(850-2000)果樹の植調剤及び資材の効果的使用法	14	25	民間委託	果樹
果樹		(850-3000)野菜の除草剤実用化試験	15	25	民間委託	野菜花き
果樹		(850-5000)【畜産研究所担当分】	16	25	民間委託	家畜飼養・飼料
果樹		(850-5100)【家畜飼養・飼料研究室担当分】	16	25	民間委託	家畜飼養・飼料
果樹		(850-5110)除草剤試験	16	25	民間委託	家畜飼養・飼料
果樹		(850-6000)【県北農業研究所担当分】	16	25	民間委託	園芸(県北)
果樹		(850-6100)【県北園芸研究室担当分】	16	25	民間委託	園芸(県北)
果樹		(850-6110)植調剤試験	16	25	民間委託	園芸(県北)
果樹		(850-6200)【県北作物研究室担当分】	19	25	民間委託	作物(県北)
果樹		(850-6210)植調剤試験	19	25	民間委託	作物(県北)
果樹		(850-7000)小麦の除草剤実用化試験	18	25	民間委託	作物(技術)
果樹		(850-8000)南部園芸研究室分	18	25	民間委託	南部園芸
果樹		(850-8100)除草剤試験	18	25	民間委託	南部園芸
果樹	25	(894)良品質・高品質生産を目的としたウイルスフリー樹の作出	14	25	令達	果樹
果樹	26	(830)ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発	14	25	令達	果樹
果樹		(830-1000)国育成系統適応性(盛岡58～65号)	14	25	国庫委託(10100)	果樹
果樹		(830-2000)国内外導入品種の選抜	14	25	令達(101007修正)	果樹
果樹		(830-3000)いわて特産中晩生種の交配育成	14	25	令達	果樹
果樹	27	(829)キャンベル・紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜	14	28	独法委託,令達	果樹
果樹		(829-1000)寒冷地向きぶどうの系統適応性試験	14	25	独法委託	果樹
果樹		(829-1400)第12回系統適応性検定試験	20	25	独法委託	果樹
果樹		(829-1500)第13回系統適応性検定試験	22	28	独法委託	果樹
果樹		(829-2000)国内外育成の寒冷地向き品種の選抜(生食用、醸造、兼用種等品種の選抜)	14	25	令達	果樹
果樹		(829-3000)耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜	14	25	令達	果樹
果樹	28	(837)ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発	14	25	令達	果樹
果樹		(837-1000)国内外導入品種の選抜	14	25	令達	果樹
果樹	29	(826)おうとう、もも等の優良品種の選抜	14	25	令達	果樹
果樹		(826-1000)おうとう、もも等の優良品種の選抜	14	25	令達	果樹
果樹	30	(H20-02)岩手県におけるおうとうの垣根仕立て栽培法の確立	20	25	県単研究	果樹
果樹	31	(H21-05)つがる等に優るりんご早生品種の開発	21	30	令達	果樹
果樹	32	(H22-03)岩手県における果樹栽培の温暖化対策技術の確立	22	27	県単研究、独法委託	果樹
果樹		(H22-03-1000)開花期前進に伴う凍霜害対策技術の確立	22	27	県単研究	果樹
果樹		(H22-03-2000)温暖化による果実障害対策技術の確立	23	27	県単研究	果樹
果樹		(H22-03-3000)気象変動に対応した優良系統の選抜	22	27	県単研究	果樹
果樹		(H22-03-5000)温暖化に対応できる新規果樹の選抜と栽培技術の確立	24	27	県単研究	果樹
果樹		(H22-03-6000)果樹園における温暖化緩和技術の開発(仮称)	22	26	独法委託	果樹
果樹	33	(H23-03)りんご新品種などの安定生産技術の確立	23	28	県単研究	果樹
果樹		(H23-03-1000)オリジナル品種の安定生産技術の確立	23	28	県単研究	果樹
果樹		(H23-03-2000)優良品種の栽培技術の確立	23	28	県単研究	果樹
果樹	34	(H23-04)ぶどうオリジナル品種の安定生産技術の確立	23	26	県単研究	果樹
果樹		(H23-04-1000)高品質果実生産方法の確立	23	25	県単研究	果樹
果樹		(H23-04-2000)短梢栽培用平棚を利用した栽培方法の	23	26	県単研究	果樹
果樹	35	(H24-16)果樹生産のための省力・軽労化機器の開発	24	26	独法委託	果樹
果樹		(H24-16-2000)小型幹周草刈機の抑草効果と樹体に及ぼす	24	26	独法委託	果樹
果樹		(H24-16-3000)高機動型果樹用高所作業台の現地実証	24	25	独法委託	果樹
果樹	36	(H24-17)国産小果樹類の新規市場開拓のための省力生産技術・加工品の開発	24	28	独法委託	果樹

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【野菜花き研究室】						
野菜花き	37	(H21-15)低コスト養液土耕栽培による水田転換畑におけるリン酸肥料削減技術の実証	21	25	独法委託	野菜花き
野菜花き		(H21-15-1000)低コスト養液土耕装置を利用した効率的施肥法の確立	21	25	独法委託	野菜花き
野菜花き		(H21-15-2000)リン酸成分を有効活用した省資源型農業の開発	23	25	独法委託	野菜花き
野菜花き	38	(843)りんどうの生育・生態調査	14	25	県単研究	野菜花き
野菜花き	39	(840)りんどうF1品種の親株維持・増殖技術の確立	14	25	県単研究	野菜花き
野菜花き		(840-1000)種子による親株維持技術の確立	14	25	県単研究	野菜花き
野菜花き		(840-2000)培養系親系統の特性検定及びF1品種の組合せ検定	14	25	県単研究	野菜花き
野菜花き	40	(191)りんどうの品種育成	S49	25	令達	野菜花き
野菜花き		(191-1000)りんどうの品種開発	20	25	令達	野菜花き
野菜花き		(191-2000)親株の安定生産	20	25	令達	野菜花き
野菜花き	41	(H19-09)温度・日長条件に対するりんどうの生育反応	19	25	県単研究	野菜花き
野菜花き	42	(H22-07)リンドウ栽培安定化技術の開発	22	26	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H22-07-1000)リンドウ発芽率向上安定化技術の開発	22	25	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H22-07-2000)県育成極早生品種の株養成技術の開発	22	26	県単研究	野菜花き
野菜花き	43	(H23-05)早晩性の違いによるリンドウ組織培養の増殖条件の確立	23	25	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H23-05-1000)組織培養を用いた増殖における培養温度条件と早晩性の関係	23	25	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H23-05-2000)組織培養を用いた増殖における光条件の検討	23	25	県単研究	野菜花き
野菜花き	44	(H23-06)収穫量の時期別変動が小さいパブリカ安定栽培技術の確立	23	25	県単研究、独法委託	野菜花き
野菜花き		(H23-06-1000)収穫量調節技術及び収穫前着色促進技術の開発	23	25	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H23-06-2000)光照射追熟技術の開発	23	25	独法委託	野菜花き
野菜花き		(H23-07)「なす」の省力・低コスト栽培技術の開発(H25休	23	26	県単研究	野菜花き
野菜花き		立(H25休止)	23	26	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H23-07-2000)簡易で省力的な栽培技術の確立(H25休	23	26	県単研究	野菜花き
野菜花き	45	(H23-08)長期安定収穫が可能なトマト栽培技術の確立	23	29	県単研究、独法委託	野菜花き、生産環境、南部園芸
野菜花き		(H23-08-1000)低温期の障害果発生回避技術の確立	23	27	県単研究	野菜花き
野菜花き		(H23-08-2000)栽培管理・天候に対応したかん水・追肥技術の確立	23	25	県単研究	生産環境
野菜花き		(H23-08-3000)高温期における草勢管理技術の確立	24	29	県単研究、独法委託	野菜花き
野菜花き		(H23-08-4000)3段階摘芯新栽培様式の確立	23	29	県単研究、独法委託	南部園芸
野菜花き	46	(H24-03)長日要求性素材を利用した極晩抽性ハクサイの安定生産技術の確立	24	26	独法委託	野菜花き
野菜花き	47	(H24-04)岩手型アスパラガス伏せ込み促成栽培安定生産技術の確立	24	26	国庫委託、県単	野菜花き、園芸(県北)
野菜花き		(H24-04-1000)高温及び低温による休眠打破メカニズムの解明	24	26	国庫委託	野菜花き
野菜花き		(H24-04-2000)高温による休眠打破を利用した新作型の確立	24	26	国庫委託、県単	野菜花き
野菜花き	48	(H24-05)新形質キュウリ安定生産技術の確立	24	28	独法委託、県単	野菜花き
野菜花き		(H24-05-1000)病害抵抗性台木の適応性の解明	24	26	独法委託	野菜花き
野菜花き		(H24-05-2000)露地栽培における安定生産技術の確立	26	28	県単	野菜花き

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【南部園芸研究室】						
南部園芸	49	(H22-05)イチゴ夏秋どり作型における適品種の選定と多収生産技術の確立	22	25	県単研究、独法委託	南部園芸
南部園芸		(H22-05-1000)夏秋どり作型における四季成り性イチゴ適品種の選定	22	25	県単研究	南部園芸
南部園芸		(H22-05-2000)夏秋どり作型における多収生産技術の開発	22	25	県単研究、民間委託	南部園芸
南部園芸		(H22-05-3000)夏秋どり作型における一季成り性品種の適応性評価	22	25	県単研究、独法委託	南部園芸
南部園芸	50	(H23-10)園芸分野における木質系資源の有効利用技術の	23	25	県単研究	南部園芸
南部園芸		(H23-10-1000)粉碎杉樹皮を用いた新たな園芸培地の	23	25	県単研究	南部園芸
南部園芸		(H23-10-2000)促成イチゴの低コスト加温栽培技術の開発	23	25	県単研究	南部園芸
南部園芸	51	(H25-03)地域適応性の高いいちご系統の選定	25	27	県単	南部園芸
南部園芸		(H25-03-1000)地域適応性の高い半促成栽培向けいちご系統の選定	25	27	県単	南部園芸
南部園芸		(H25-03-2000)地域適応性の高い夏秋どり栽培向けいちご系統の選定	25	27	県単	南部園芸
【生産環境研究室】						
生産環境	52	(H15-24)環境保全型有機質資源連用効果調査	15	27	県単(土壌対策)	生産環境
生産環境		(H15-24-1000)水田における有機質資源連用効果	15	27	県単(土壌対策)	生産環境
生産環境		(H15-24-2000)畑地における有機質資源連用効果	15	27	県単(土壌対策)	生産環境
生産環境	53	(H16-22)新肥料の実用化	16	27	民間委託	生産環境
生産環境		(H16-22-5000)プロジェクト推進室	20	27	民間委託	プロジェクト
生産環境		(H16-22-7000)技術部	20	27	民間委託	作物(技術)、果樹、野菜花き、南部園芸
生産環境		(H16-22-7100)作物研究室(技術)担当分	20	27	民間委託	作物(技術)
生産環境		(H16-22-7300)南部園芸研究室担当分	20	27	民間委託	南部園芸
生産環境		(H16-22-7400)果樹研究室担当分	23	27	民間委託	果樹
生産環境		(H16-22-7500)野菜花き研究室担当分	23	27	民間委託	野菜花き
生産環境		(H16-22-8000)環境部	20	27	民間委託	生産環境
生産環境		(H16-22-8100)生産環境研究室担当分	20	27	民間委託	生産環境
生産環境		(H16-22-9000)県北農業研究所	20	27	民間委託	園芸(県北)、作物(県北)
生産環境		(H16-22-9100)園芸研究室(県北)担当分	20	27	民間委託	園芸(県北)
生産環境		(H16-22-9200)作物研究室(県北)担当分	20	27	民間委託	作物(県北)
生産環境	54	(H20-20)土壌由来温室効果ガスインベントリ情報等整備調査	20	32	国庫委託	生産環境
生産環境	55	(H15-23)土壌機能実態モニタリング調査	15	25	県単(土壌対策)	生産環境
生産環境	56	(H21-14)窒素質肥料添加による高窒素鶏ふん堆肥の製造とその利用技術の開発	21	25	独法委託	生産環境
生産環境	57	(H23-12)土壌環境に配慮した家畜由来有機質資源の肥料的評価	23	26	県単研究	生産環境
生産環境	58	(H24-14)農作物および土壌中放射性セシウム濃度のモニタリング調査および農作物中放射性セシウム濃度に関する土壌要因の解明	24	25	令達	生産環境
生産環境		(H24-14-1000)水稻・畑作物におけるモニタリング調査	24	24	令達	作物、生産環境
生産環境		(H24-14-2000)果樹におけるモニタリング調査	24	25	令達	果樹、生産環境
生産環境		(H24-14-3000)野菜類におけるモニタリング調査	24	24	令達	野菜花き、生産環境
生産環境		(H24-14-4000)土壌におけるモニタリング調査および農作物中放射性セシウム濃度に関する土壌要因の解明	24	25	令達	生産環境

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【病理昆虫研究室】						
病理昆虫	59	(H09-03)【植物防疫事業研究】	9	27	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	60	(402)新農薬の効果検定と防除基準作成	9	25	民間委託	病理昆虫
病理昆虫		(402-2000)東北農業研究所	9	25	民間委託	園芸(県北)
病理昆虫		(402-4000)環境部	9	25	民間委託	病理昆虫
病理昆虫		(402-5000)技術部	16	25	民間委託	果樹
病理昆虫	61	(H15-28)地域特産物における新防除資材の実用化	15	25	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H15-28-1000)雑穀類の難防除害虫	22	25	国庫補助	作物(県北)
病理昆虫	62	(H22-01)広域的な葉いもち防除の徹底による穂いもち防除を省略したいもち病防除体系の確立	22	26	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	63	(H22-04)ハダニ類を主体としたリンゴ病害虫防除体系の最適化	22	26	国庫補助	病理昆虫、果樹
病理昆虫		(H22-04-1000)夏期の防除体系の最適化	22	26	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H22-04-2000)樹型等を考慮した適正な薬剤散布量の検討	22	26	国庫補助	果樹
病理昆虫	64	(H22-06)キュウリ栽培で問題となる病害の防除技術確立	22	26	国庫補助、県単研究	病理昆虫
病理昆虫		(H22-06-1000)ホモブシス根腐病の防除技術確立	22	26	国庫補助、独法委託	病理昆虫
病理昆虫	65	(H23-13)耕種的防除と天敵製剤を組み合わせた果菜類害虫の防除技術の開発	23	25	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H23-13-1000)施設栽培なすにおける天敵製剤を活用した化学合成農薬削減技術の開発	23	25	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H23-13-2000)施設栽培ピーマンにおける天敵製剤を活用した化学合成農薬削減技術の開発	23	25	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	66	(H23-14)ハウレンソウ栽培で問題となる病害の防除技術の確立	23	26	令達、国庫補助、独法委託	病理昆虫
病理昆虫		(H23-14-1000)ハウレンソウ白斑病の防除技術の検討	23	25	令達	病理昆虫
病理昆虫		(H23-14-2000)土壌酸性改良によるハウレンソウ萎凋病の発病抑制効果の検討	23	26	国庫補助、独法委託	病理昆虫
病理昆虫	67	(H24-07)リンドウホソハマキの効率的な防除体系の確立	24	26	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	68	(H25-01)水稻細菌病類(もみ枯細菌病・苗立枯細菌病)を主体とした種子伝染性病害の総合防除技術の確立	25	27	国庫補助	病理昆虫、技術(作物)
病理昆虫	69	(H25-02)大豆のマメシクイガに対する効率的な防除対策の確立	25	27	令達	病理昆虫
病理昆虫	70	(H25-04)りんどうこぶ症関連ウイルス(GKaV)の伝搬経路の探索	25	27	県単	病理昆虫、野菜花き
病理昆虫		(H25-04-1000)りんどうこぶ症ウイルス(GKaV)の媒介生物、保毒雑草、保毒微生物の探索	25	27	県単	病理昆虫
病理昆虫		(H25-04-2000)りんどうこぶ症ウイルス(GKaV)の花粉・種子伝染の確認	25	27	県単	野菜花き
【家畜育種研究室】						
家畜育種	71	(304)肉用牛における経済形質とDNAマーカーとの連鎖解析	7	25	令達	家畜育種
家畜育種	72	(237)日本短角種産肉能力検定(現場後代検定法)	17	30	令達	家畜育種
家畜育種	73	(236)日本短角種産肉能力検定(直接法)	S45	30	令達	家畜育種
家畜育種	74	(H22-12)和牛肥育における尿石症予防のための飼養技術の開発	22	25	県単研究	家畜育種、種山畜産
家畜育種	75	(H22-15)岩手独自の新軍鶏系統の開発	22	26	県単研究	家畜育種
家畜育種	76	(H22-30)パークシャー種における輸入トウモロコシから飼料米への全量代替給与技術の確立	22	26	独法委託	家畜育種
家畜育種	77	(H22-29)発酵TMR素材としての自給高タンパク質飼料の低コスト調製・給与技術の開発(乳牛・肉用牛給与)(2)肉用牛への給与技術	22	26	独法委託	家畜飼養・飼料、家畜育種
家畜育種	78	(H22-35)DNA情報等を指標とした種雄牛選抜の実用化	22	26	令達	家畜育種
家畜育種	79	(H23-16)生産農場におけるパークシャー種豚群の遺伝的改良システムの構築	23	27	県単研究	家畜育種

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【家畜飼養・飼料研究室】						
家畜飼養・飼料	80	(253)とうもろこし市販品種の特性比較	S54	25	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	81	(H22-19)飼料作物栽培における土壌条件等に応じた減肥技術の確立	22	26	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	82	(H22-20)乳用育成牛から初産までのTMR給与技術の開発	22	25	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	83	(H23-15)乾乳期間の短縮が高泌乳牛に及ぼす影響の解明	23	26	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	84	(H23-20)空気清浄機能を有する畜舎用換気装置の開発と実用化	23	25	独法委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	85	(H24-08)オーチャードグラス中生優良品種選定試験	24	26	県単独	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	86	(H24-20)イタリアンライグラス系統適応性試験	24	27	独法委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	87	(H25-05)草地更新における除草剤処理等を活用した春期牧草播種技術の確立	25	27	県単	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	88	(H25-08)放射性セシウム汚染草地における除染効果の検証および放射性セシウムレベルの追跡調査	25	27	令達	家畜飼養・飼料
【外山畜産研究室】						
外山畜産	89	(H22-10)日本短角種の周年出荷へ向けた飼養管理技術の確立	22	25	県単研究	外山畜産,家畜育種
外山畜産	90	(H24-09)黒毛和種の妊娠中後期における冬期飼養技術の確立	24	26	県単独	外山畜産
外山畜産	81	(H25-06)生育速度の速い草種等を用いた放牧地の春期更新・早期利用技術体系の確立	25	27	県単	外山畜産
外山畜産	92	(H25-07)寒冷時期生産牧草サイレージへの低温性乳酸菌添加による牧草サイレージおよび発酵TMRの品質向上技術の確立	25	27	県単	外山畜産
【種山畜産研究室】						
種山畜産	93	(235)黒毛和種産肉能力検定(間接法・現場後代検定)	1	30	管理運営費	種山畜産
種山畜産	94	(857)黒毛和種雄牛の利用及び能力調査	14	30	管理運営費	種山畜産
種山畜産	95	(234)黒毛和種産肉能力検定(直接法)	S62	30	管理運営費	種山畜産

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【園芸研究室(県北研)】						
園芸(県北)	96	(H22-28)地球温暖化が果樹・野菜等の園芸作物および茶に及ぼす影響評価と適応技術の開発	22	26	独法委託	園芸(県北)
園芸(県北)	97	(H24-11)ホウレンソウケナガコナダニの総合防除体系の確立	24	26	国庫補助	園芸(県北)
園芸(県北)	98	(H24-12)県北地域における新たなねぎ出荷体系の確立	24	26	県単	園芸(県北)
園芸(県北)		(H24-12-1000)業務用規格に対応した栽培法の確立	24	26	県単	園芸(県北)
園芸(県北)	99	(H24-13)県北地域における無側枝性ギクの栽培技術体系の確立	24	26	県単	園芸(県北)
園芸(県北)		(H24-13-1000)8～9月咲き無側枝性ギクの栽培技術体系の確立	24	26	県単	園芸(県北)
園芸(県北)		(H24-13-2000)長期継続出荷のための有望品種の特性	25	26	県単	園芸(県北)
園芸(県北)	100	(H24-18)新作型開発による東北・北陸におけるタマネギの生産拡大	24	26	独法委託	園芸(県北)
園芸(県北)		(H24-18-1000)県北地域における適する作型開発	24	26	独法委託	園芸(県北)
園芸(県北)		(H24-18-2000)ハウスを用いた乾燥方法の開発	24	26	独法委託	園芸(県北)
【作物研究室(県北研)】						
作物(県北)	101	(H22-22)いわて雑穀生産・販売戦略を支援する雑穀優良種子の生産	22	26	令達	作物(県北)
作物(県北)	102	(H22-23)いわて雑穀生産・販売戦略を支援する品種開発と持続的安定生産技術の確立	22	26	国庫補助, 県単研究, 令達	作物(県北)
作物(県北)		(H22-23-1000)加工・栽培特性に優れた雑穀オリジナル品種の開発と雑穀遺伝資源の収集・評価・保存	22	26	県単研究	作物(県北)
作物(県北)		(H22-23-2000)安定生産を可能にする雑穀畑輪作技術の確立	22	26	県単研究, 令達	作物(県北)
作物(県北)		(H22-23-4000)化学合成農薬を用いない雑穀病害虫防除技術の開発	22	26	国庫補助	作物(県北)
作物(県北)	103	(H24-10)雑穀の機械移植法の開発	24	26	県単独、民間委託	作物(県北)
H25 追加						
プロジェクト		(H25-11)中小区画土地利用型営農技術の実証研究	25	29	独法委託	プロジェクト
南部園芸研究室		(H25-12)中山間地域における施設園芸技術の実証研究	25	29	国庫委託	南部園芸研究室
果樹研究室		(H25-13)ブランド化を促進する果実の生産加工技術の実証研究	25	29	国庫委託	果樹研究室
野菜花き研究室		(H25-14)ブランド化を促進する野菜の生産・加工技術の実証研究	25	29	国庫委託	野菜花き研究室
農業経営		(H25-15)岩手県下における農業・農村型実証研究の導入効果の解明	25	29	国庫委託	農業経営研究室

(3) 平成26年度試験研究を要望された課題とその措置一覧

(平成25年10月23日付け農研企第160号で要望機関に回答)

1 要望課題一覧

連番	部会	要望機関	要望課題名	担当研究室 ○主査	措置 区分
1	農産	農産園芸課	TPP協定参加を見据えた水稲の省力・低コスト生産技術体系の組み立て	○プロジェクト推進室、農業経営研究室、技術部作物研	B,C,D
2	園芸	全農岩手県本部	りんごのわい化栽培における早期成園化並びに省力化を目指す栽培システムの構築	果樹研究室	B,A2
3	園芸	中央農業改良普及センター(県域)	補給型施肥がりんごの樹体生育と果実品質に及ぼす影響の検証	○生産環境研究室、果樹研究室	A1
4	園芸	中央農業改良普及センター(地域)	クラブアップルの受粉専用品種としての剪定方法の解明	果樹研究室	C
5	園芸	中央農業改良普及センター(一関)	JM7台木とM26 台木の耐寒性の比較	果樹研究室	C
6	園芸	中央農業改良普及センター(県域)	きゅうりフケ果の発生要因解明と対策について	○生産環境研究室、野菜・花き研究室	D
7	園芸	中央農業改良普及センター(県域)	岩手県における青枯病対策技術の確立	病理昆虫研究室	D
8	園芸	中央農業改良普及センター(県域、八幡平)	りんどうの炭疽病、黒斑病、苗腐敗症への適用農薬の拡大	病理昆虫研究室	A1
9	園芸	中央農業改良普及センター(地域)	りんどうを加害する難防除害虫キオビトガリメイガの発生生態の解明と防除対策の確立	病理昆虫研究室	A1
10	畜産	全農岩手県本部	泡タイプティートディップの効果検証について	家畜飼養・飼料研究室	D
11	畜産	中央農業改良普及センター(県域)	黒毛和種一貫経営体における効率的牛肉生産のための飼養管理技術の確立	家畜育種研究室	A1
12	畜産	中央農業改良普及センター(県域、奥州)	各地域における和牛子牛価格形成要因の解析とデータ利用体系の構築	種山畜産研究室	D
13	畜産	中央農業改良普及センター(奥州)	枝肉成績に基づいた飼養管理技術情報の解析とデータ利用体系の構築	種山畜産研究室	D
14	畜産	中央農業改良普及センター(奥州)	飼料作物、牧草の優良品種の選定	家畜飼養飼料研究室	B
15	畜産	中央農業改良普及センター(奥州)	放射性物質を含んだ牧草の給与による原乳等への移行と抑制対策の確立	家畜飼養・飼料研究室	C
16	県北	中央農業改良普及センター(県域)	生食用露地ほうれんそう栽培法の確立	園芸研究室(県北)	A1,D

【措置区分】 A1:次年度実施予定 A2:〇〇年度実施予定(実施予定年度を記載) B:現在実施中

C:既知見あり D:実施できない

5 共同研究等の推進

(1) 食料生産地域再生のための先端技術展開事業(委託)

課題名	委託元	研究期間	研究の内容	担当研究室
被災地域の早期復興に資する果樹生産・利用技術の実証研究	果樹研究所(*)	H24～29	レッドカーランツ及びカシスの栽培技術の確立	果樹
施設園芸栽培の省力化・高品質化実証研究	野菜茶業研究所(*)	H24～29	トマト低段栽培の周年高品質多収のための環境制御と群落管理技術の構築(インタープランティング技術)	南部園芸 野菜花き
中小区画土地利用型営農技術の実証研究	東北農業研究センター(*)	H25～29	中小区画水田における土地利用型作物の安定生産技術及び地域の気象条件を生かした加工品開発により収益性の向上を図る実証研究	プロジェクト推進室 農業経営 作物(技術部) 生産環境
中山間地域における施設園芸技術の実証研究	農林水産省技術会議事務局	H24～29	木骨ハウスや木質資源を活用した低コスト暖房、ICT導入による分散施設の効率的な管理などによる、中山間地域に適用性の高い施設園芸技術を構築する実証研究	南部園芸 野菜花き
ブランド化を促進する果実の生産・加工技術の実証研究	農林水産省技術会議事務局	H24～29	露地キュウリと冬春キャベツによる高収益栽培体系の確立、水稻育苗施設を用いたパブリカの高品質生産技術、省力的なトマト栽培技術などにより収益性の高い新たな営農モデルを構築し、産地ブランド化を目指す実証研究	果樹
ブランド化を促進する野菜の生産・加工技術の実証研究	農林水産省技術会議事務局	H24～29	リンゴの早期成園化技術、北限のユズの栽培技術の構築と加工品開発、ブドウの新品種導入、加工品開発、省力栽培技術などによる、付加価値の高い果実の生産・加工技術を構築する実証研究	野菜花き

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

(2) 農林水産省委託プロジェクト研究事業(委託)

課題名	委託元	研究期間	研究の内容	担当研究室
地域内資源を循環利用する省資源型農業確立のための研究開発	近畿中国四国農業研究センター(*)	H21～25	低コスト養液土耕栽培による水田転換畑におけるリン酸肥料削減技術の実証	野菜花き
地域内資源を循環利用する省資源型農業確立のための研究開発	中央農業総合研究センター(*)	H21～25	窒素質肥料添加による高窒素鶏ふん堆肥の製造とその利用技術の開発	生産環境
自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発	畜産草地研究所(*)	H22～26	多収でいもち病抵抗性・耐冷性・識別性を有する飼料用米品種の育成	作物(技術部)
	国立大学法人山形大学	H22～26	バークシャー種における輸入トウモロコシから飼料米への全量代替給与技術の確立	家畜育種
	畜産草地研究所(*)	H22～26	発酵TMR素材としての高タンパク質飼料の低コスト調製・給与技術の開発	家畜育種 家畜飼養・飼料
農林水産分野における地球温暖化対策のための緩和及び適応技術の開発	(独)農業環境技術研究所	H22～26	果樹園における剪定枝チップ等の施用の影響解明	果樹
農林業に係る気候変動の影響評価委託事業	(独)農業環境技術研究所	H25～27	温暖化が野菜生産に及ぼす影響評価(ハウレンソウ生育・遮光管理法高温影響評価)	園芸(県北研)

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

(3) 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業(委託)

課題名	共同研究機関 (筆頭が中核機関)	研究期間	研究の内容	担当研究室
空気清浄(脱臭・除菌)機能を有する畜舎用光触媒換気装置の開発と実用化(課題番号:23061)	【地独】岩手県工業技術センター、岩手大学、パウレックス㈱、㈱釜石電気製作所	H23～25	5 群飼環境下における環境改善方法の確立	家畜飼養・飼料
涼しい夏を活かす！国産夏秋イチゴ安定多収技術の開発・実証(課題番号:23006)	東北農業研究センター(*)、(地独)青森県産業技術センター野菜研究所他	H23～25	2「花成制御による夏秋イチゴ安定多収技術の開発」 (1)「なつあかり」の長日処理等による安定多収技術の開発	南部園芸
カラーピーマンの光照射追熟技術を利用した増収栽培技術の開発(課題番号:23004)	野菜茶業研究所(*)、宮城県、山形県、長野県、高知県	H23～25	2「光照射追熟を利用した早どり増収栽培技術の開発」 (1)「収穫果実の熟度、収穫時期および品種が光照射追熟に及ぼす影響の解明」	野菜花き
地球温暖化に対応したブドウおよびウメ新品種の開発と温暖化進行後の適地変化予測(課題番号:23029)	果樹研究所(*)、山梨県、福岡県、和歌山県、群馬県、石川県、愛媛県、鹿児島県	H23～25	醸造用ぶどう品種開発 ③選抜系統の岩手県における地域適応性の解明	果樹
食料自給率向上に貢献できる実需者ニーズの高い大豆優良品種の育成(課題番号:23031)	作物研究所(*)、(地独)北海道総合研究機構、北海道、長野県、新潟県、2農業協同組合、朝日食品工業㈱、福島県、京都府、千葉県、鹿児島県	H23～25	(2)～⑨大豆立枯性病害抵抗性系統の評価	作物(技術部)
耐病性といもち病抵抗性を兼ね備えた極良食味及び業務用米品種の開発とその普及(課題番号:23038)	(地独)北海道立総合研究機構、北海道農業研究センター(*)、東北農業研究センター(*)、宮城県、秋田県、山形県、福島県、北海道	H23～25	Ⅱ.寒地における安定良質水稻品種の開発 エー①耐冷性特性調査	作物(技術部)
東北・北陸地域における新作物型開発によるタマネギの端境期生産体系の確立(課題番号:24006)	東北農業研究センター(*)、東北農業研究センター(*)、山形県、富山県、弘前大学	H24～26	1-(5)大規模畑作地帯を想定した栽培技術の開発 2-(2)望ましい干渉条件の検討	園芸(県北研)
転炉スラグによる土壌pH矯正を核としたフザリウム性土壌病害の耕種的防除技術の開発(課題番号:24015)	東北農業研究センター(*)、(地独)青森県産業技術センター、宮城県、福島県、東京農業大学	H24～26	1-(1)転炉スラグの効率的な施用によるホウレンソウ萎縮病の被害軽減技術の開発と実証	病理昆虫

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

(4) 研究成果最適展開支援事業((独)科学技術振興機構、委託)

課題名	共同研究機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
(育成研究)				
長日要求性素材を利用した極晩抽性ハクサイの安定生産技術の確立	東北農業研究センター(*), 岩手大学、サカタのタネ	H24~26	選抜系統F1組合わせを用いた新作型の開発	野菜花き

(5) その他独法等からの委託(10/10委託)

事業・課題名	共同研究機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
生研センター・イノベーション創出基礎的研究推進事業(発展型研究一般枠Aタイプ)	(公財)岩手生物工学研究センター	H24~25	「ひとめぼれ」ゲノム資源を活用した重要遺伝子同定と実用品種育成	作物(技術部)
受託研究	中央農業総合研究センター(*)	H24~25	育成地等からの麦類育成系統の耐寒雪性圃場検定	作物(技術部)
受託研究	東北農業研究センター(*)	H24~25	イタリアンライグラスの系統適応性特性検定試験	家畜飼養・飼料
受託研究	生研センター(*)	H25~26	小型幹周草刈機および高機動型高所作業台車の主幹形リンゴ園での実証試験	果樹

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

(6) 民間委託試験(10/10委託)

事業名・課題名	相手方	研究の内容	担当研究室
農薬及び植物調節剤等の効果検定試験	(一社)岩手県植物防疫協会	(社)日本植物防疫協会からの委託	病理昆虫、園芸(県北研)、作物(県北研)
		(社)日本植物調節剤研究協会からの委託	作物(技術部)、果樹、家畜飼養・飼料、作物(県北研)
肥料の効果等に関する試験	岩手県施肥合理化協議会	(対象作物) 水稻、水稻(育苗)、大豆、りんご、ピーマン、キャベツ(育苗)、りんどう、小ぎく	果樹、作物(技術部)、野菜花き、生産環境、作物(県北研)、園芸(県北研)

(7) (公財)岩手生物工学研究センターとの共同研究

研究課題名	生工研担当	研究期間	研究の内容	担当研究室
水稻重要形質と連鎖したDNAマーカーの探索	生命科学研究部(遺伝学ゲノム学研究分野)	H15~26	生工研と共同で遺伝子解析に基づくDNAマーカーの開発及びそれらを用いた岩手オリジナル水稻品種の育成	作物(技術部)
DNAマーカー利用によるリンドウ新育種技術の開発と品種保護への応用	細胞工学研究部(分子育種研究分野)	H20~25	リンドウのDNAマーカーの整備及びそれらを用いた優良品種の育成法の確立 品種保護のために高精度かつ簡易なDNA鑑定技術の開発	野菜花き 病理昆虫
先端的技術を用いた岩手県独自の病害虫診断システムの基盤構築	生命科学研究部(植物病態分子研究分野)	H24~25	リンドウこぶ症関連ウイルス(GKaV)とこぶ症発症との因果関係の解明 分子生物学的な病害虫診断技術を利用した新たな病害虫防除システムの構築	病理昆虫

(8) 他の公設試との共同研究

課題名等	相手方	研究期間	担当研究室
ワイン専用ぶどう新系統の醸造特性評価	工業技術センター	H6～	果樹
県産小麦品種の加工特性評価	工業技術センター	H7～	作物(技術部)
醸造用水稲品種の開発	工業技術センター	H8～	作物(技術部)

(9) AFR(岩手農林研究協議会)研究会

ア 研究会

名称	構成	研究期間	担当研究室
1 岩手育種研究会	◎岩手大学農学部・教育学部、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、岩手生物工学研究センター	H10～	作物(技術部)
2 水稲栽培研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	H11～	作物(技術部)
3 イワテヤマナン研究会	◎神戸大学大学院農学研究科、岩手大学農学部・教育学部、岩手県農業研究センターほか	H24～	果樹
4 リンドウ研究会	◎岩手大学農学部、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、八幡平市花き研究開発センター	H11～	野菜花き

※平成24年度協議会(11/16)において継続活動実績のある研究会に整理することを承認。これを受けて当センター職員が参加している研究会のみを掲載した。

イ AFR協議会等の開催

開催月日	場所	内容
25.10.16	岩手大学農学部 1号館2階1号会議室	平成25年度岩手農林研究協議会(AFR)協議会
25.7.16	岩手大学農学部 1号館2階小会議室	平成25年度第1回岩手農林研究協議会(AFR)幹事会
25.11.21		平成25年度第2回岩手農林研究協議会(AFR)幹事会

(10) その他共同研究

課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
肉用牛における経済形質とDNAマーカーの連鎖解析	(社)畜産技術協会	H13～	岩手県種雄牛の約300頭からなる半兄弟家系を作成し、DNAマーカーによる連鎖解析を行い、経済形質遺伝子座を明らかにする。また、遺伝的不良形質について、500頭程度の半兄弟サンプルを追加、原因領域に新たなマーカーの追加等を行い原因となる遺伝子座を明らかにする。	家畜育種
生物遺伝資源交換に関する研究協定	(独)農業生物資源研究所	H14～	植物、動物、微生物の生物遺伝資源及びDNAの相互交換	センター全体
寒冷地向けイチゴ品種の育成に関する研究	東北農業研究センター(*) (地独)青森県産業技術センター 宮城県農業・園芸総合研究所 秋田県農業試験場 山形県	H24～27	選抜初期世代から東北各地域における適応性を検定し、安定生産を可能にする寒冷地向けイチゴ品種の育成の効率化を実現する。	南部園芸研究室

課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
アラキドン酸生合成遺伝子の多型と黒毛和種のおいしさとの関連性の解明	畜産草地研究所(*) 茨城県畜産センター (株)J-オイルミルズ	H24～25	黒毛和種のアラキドン酸の生合成に関わる酵素の遺伝子多型と牛肉のおいしさの関連性を明らかにする。	家畜育種

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

(11) 産学官連携

名称	開催年月	場所	内容	担当研究室
産学官連携フォーラム いわて産学連携推進協議会 (リエゾン I)	25.11.20	盛岡市 (岩手医科大学)	研究シーズ発表による県内企業とのマッチング (事務局:岩手大学地域連携推進センター)	研究企画

※1 平成25年度リエゾン-Iマッチングフェアに出展した研究シーズ(研究シーズ集掲載)

研究シーズ名	担当研究室
加工用途に適する低アミロース米、有色素米品種	作物(技術部)、作物(県北)
飼料用米55%代替飼料で黒豚の発育・食味向上	家畜育種
黄金色、大粒、糯性の雑穀新品種「アワ岩手糯3号」	作物(県北)
(以下は「研究シーズ集」掲載のみ)	
健康志向の雑穀(ヒエ「ねばりっこ」)でお菓子を作いませんか	作物(県北研)
果肉が褐変しにくいカットフルーツに好適な赤リンゴ「紅いわて」	果樹
大玉でジューシーな赤色りんご新品種「大夢」	果樹
耐寒性が強く食味良好なぶどう「エーデルロツ」	果樹
低コストで廃液を系外に出さないイチゴの閉鎖型高設栽培“エコ”システム	南部園芸
敬老の日に彩りを～鉢物りんどう新品種「ももずきんちゃん」	野菜花き
そばや盛岡冷麺のクズ、おからなどの地域未利用資源で作るブランド豚及び地鶏の自給飼料	家畜育種

6 現地試験の実施

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 (関係研究室)	
小畦立て播種栽培に適応できる大豆の機械除草技術の確立	奥州市水沢 奥州市江刺	佐倉河 稲瀬	プロジェクト推進室 (技術部作物)	
小麦密条用小畦立て播種技術の現地実証 (24播種) (24播種)	花巻市 奥州市	西宮野目 佐倉河		
「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」 中小区画土地利用型営農技術の実証研究 水稲生産の省力化・低コスト化技術の実証	陸前高田市	広田		
省力生産を前提にした安定多収栽培技術の実証 (大豆) (ソバ)	陸前高田市 大槌町	小友 浪板		
省力・低コスト収穫作業体系の実証 (水稲) (大豆) (ソバ)	陸前高田市 陸前高田市 大槌町	広田 小友 波板		
先端プロ: 中山間水田における畦畔法面の省力管理技術の実証 研究	陸前高田市	浜田川地区	農業経営	
県産米の品質・食味トップブランド現地栽培実証 (施肥合: いわて純情米総合実証展示圃)	奥州市 奥州市 北上市 花巻市 花巻市 雫石町 八幡平市 九戸村	水沢区 胆沢区 宮野目 東和町	技術部 作物	
水稲奨励品種決定現地調査 (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (糯)	雫石町 紫波町 岩手町 花巻市 西和賀町 奥州市 一関市 大船渡市 遠野市 山田町 久慈市 二戸市 九戸村	上野 星山 土川 矢沢 沢内前郷 江刺区稲瀬 萩荘 日頃市 上郷町 豊間根 夏井 安比 荒谷		
麦類耐寒雪性特性検定試験	一戸町	奥中山		
麦類奨励品種決定調査(現地調査)	一関市 矢巾町	舞川 煙山		
大豆奨励品種決定調査(現地調査)	奥州市 盛岡市	江刺区田原 玉山区		
リンゴ育種系統の現地適応性試験	二戸市 宮古市 矢巾町 奥州市 一関市	金田一 内の沢 煙山 江刺区小倉沢 花泉町金沢		技術部 果樹
「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」 ブランド化を促進する果実の生産・加工技術の実証研究	陸前高田市	米崎 広田		

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 (関係研究室)
低コスト養液土耕装置を利用した効率的施肥法の確立(ピーマン)	遠野市 九戸村	松崎 伊保内	技術部 野菜花き
「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」 ブランド化を促進する野菜の生産・加工技術の実証研究	陸前高田市 大槌町	竹駒 大槌	
長日要求性素材を利用した極晩抽性ハクサイの安定生産技術の確立	一関市 大船渡市	千厩町奥玉 猪川町	
リンドウ育種F ₁ 系統の現地適応性試験	一戸町 雫石町 奥州市	平糠 上野 衣川区	
「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」 中山間地域における施設園芸技術の実証研究	陸前高田市	米崎	技術部 南部園芸
リンドウ採花期間における環境にやさしい肥料の検討	八幡平市	安代	環境部
水稻に対するケイ酸質肥料の施用効果の確認	花巻市	石鳥谷	生産環境
粒状てんろ炭カルの大豆の施用効果	花巻市	東和	
高窒素鶏ふん堆肥の現地実証試験	岩手町	久保	
	花巻市	笹間	
	北上市	成田	
	一関市	舞川	
復旧水田での地力改善による水稻の安定生産実証	陸前高田市	竹駒、気仙、 米崎、小友、 広田	
広域的な葉いもち防除の徹底による穂いもち防除を省略した いもち病防除体系の確立	奥州市	①江刺区 (愛 宕、田原、藤 里、玉里) ②水沢区 (佐 倉河、羽田、 姉体)	環境部 病理昆虫
大豆のマメシクイガに対する効率的な防除対策の確立	奥州市	江刺区 大豆 生産組合×3 組合	
キュウリホモブシス根腐病の防除技術の確立	花巻市	糠塚	
土壌酸性改良によるホウレンソウ萎凋病の発病抑制効果試験	①遠野市 ②八幡平市	①松崎 ②西根	
施設栽培なすにおける天敵製剤を活用した化学合成農薬削減技 術の開発	花巻市	大迫	
施設栽培ピーマンにおける天敵製剤を活用した化学合成農薬削減 技術の開発	①花巻市 ②奥州市 ③矢巾町	①石鳥谷町 ②水沢区 ③室岡 (パプ リカ)	
りんどうこぶ症関連ウイルス(GKaV)の伝搬経路の探索	①八幡平市 ②西和賀町 ③盛岡市	こぶ症発症圃 場	
新農薬の効果試験と防除指針作成	①三戸町 ②軽米町 ③盛岡市 ④花巻市 ⑤岩泉町	①斗内 ②晴山 ③羽場 ④石鳥谷町 ⑤安家、小川	

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 (関係研究室)
民間農場におけるパークシャー種豚農場改良システム	岩泉町		畜産研究所
自給飼料多給による高付加価値豚肉生産			家畜育種
飼料作物栽培における土壌条件等に応じた減肥技術の確立	滝沢市		家畜飼養・飼料
小区画圃場でのとうもろこし不耕起実証試験 トウモロコシ市販品種の特性比較	葛巻町 宮古市 八幡平市		
日本短角種の周年出荷へ向けた飼養管理技術の確率	久慈市		外山畜産
黒毛和種の妊娠中後期における冬期屋外飼養技術の確立	洋野町		
たまねぎの新作型栽培法の確立	九戸村	江刺家	県北農業研究所
土壌くん蒸剤による難防除雑草ゴウシュウアリタソウの防除対策	軽米町 軽米町	観音林 増子内	園芸
加工・栽培特性に優れた雑穀オリジナル品種の開発と雑穀遺伝資源の収集・評価・保存	軽米町 一戸町	晴山 面岸	県北農業研究所 作物
安定生産を可能にする雑穀畑輪作技術の確立	二戸市 軽米町	上海上 長倉	